

令和 3 年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校  
自己評価書

横浜市立南高等学校附属中学校

## <学校情報>

1 課程・学科 併設型中高一貫教育校

2 学校長 遠藤 広樹 (令和3年4月1日現在 在職1年目)

3 学校教育目標

- ① 学びへの飽くなき探究心をもつ人材の育成 《知性》
- ② 自ら考え、自ら行動する力の育成 《自主自立》
- ③ 未来を切り拓く力の育成 《創造》

4 教育方針

- ① 国際社会で活躍するリーダーの育成を目指す学校
- ② 6年間の一貫教育で健全な心身をはぐくむ学校
- ③ 質の高い学習により、高い学力を習得できる学校
- ④ 生徒が互いに切磋琢磨し、常に活気に溢れている学校

5 教職員数 (令和3年12月1日現在)

学校長 1 校長代理 1 副校長 1  
教諭 22 (男 13、女 9) 養護教諭 1  
事務職員 1 技能職員 2  
A E T 1 非常勤講師 4

6 生徒在籍数 (令和3年12月1日現在)

年次(学年)	学級数	男子	女子	合計
1	4	80	80	160
2	4	70	89	159
3	4	76	84	160
合計	12	236	253	479

7 回収率

		依頼数	回答数	回収率
教職員		22	22	100%
生徒	1年	160	156	97.5%
	2年	159	154	96.9%
	3年	160	155	96.9%
	合計	479	465	97.1%
保護者		479	444	92.7%

8 自己評価実施日

地域	令和3年11月
教職員	令和3年11月8日～令和3年11月15日
生徒	令和3年11月15日～令和3年11月19日
保護者	令和3年11月16日～令和3年11月24日

9 集計・分析期間

令和3年11月24日～令和4年2月28日
----------------------

10 自己評価書の公表方法・時期

- ・ 南高等学校附属中学校ホームページ 令和4年6月～

## <自己評価>

### 1 第3期横浜市教育振興基本計画の推進状況

「中高一貫教育校として中高の連携・共同による魅力ある学校づくり」

- 中高一貫教育課程の編成と実施
- 教職員の研修の充実と指導力の向上
- 中高教職員の創意工夫と協力による活気溢れる学校組織の確立と運営

#### 魅力ある学校教育の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】1, 2, 3 生徒1, 10, 11 保護者1, 2)

取組	<p>① 本校独自の教育課程については、入学前の学校説明会や学年だより、ホームページ等で広く周知徹底を図った。また、各教科だけでなく『EGG(総合的な学習の時間)』を通して、「豊かなコミュニケーション能力」「論理的な思考力」「幅広い教養と社会性」「多様性を尊重する態度」等々を高める活動を時期内容等、工夫して行った。卒業生の講演会を計画・実施し、その活躍と体験談から、未来の自分の姿をイメージし、本校で学ぶ意義を再確認する機会とすることができた。</p> <p>② 学校のグランドデザイン(経営全体構想)をもとに、新しい学習指導要領の理念に即して、カリキュラム・マネジメントに取り組んだ。中高の6年間を見通して、指導と評価の一体化を目指し、中高職員がお互いに授業参観及び研究協議を行う研修を実施した。</p> <p>③ 中高管理職で方針を揃え、中高一本化を推進した。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目1「魅力ある学校づくりに向けて学校全体として取り組んでいる」については100%、保護者評価項目1, 2「中高一貫校として特色ある教育活動の取組」「教育課程は充実している」については、ともに全学年85%以上がそう思うと答えている。また、保護者アンケート項目9「学校生活の様子を家庭へ十分かつ適切に伝えている」について87%以上の評価を受けており、本校の特色ある教育活動については、引き続き高い評価を受けている。</p> <p>② 中高授業研究会では「新学習指導要領に対応した学習評価の研究と実践」について研修し、中高それぞれの職員の授業力向上に役立てることができた。中高合同教科会にて、各教科の指導及び評価計画を検討・作成することができた。</p> <p>③ セクション会や南高祭、部活動などで中高協力した取組が進んだ。</p>
課題	<p>① 本校の特色の一つ『EGG(総合的な学習の時間)』については、3年間を見通した指導計画に則り、概ねねらいを達成し、生徒にとって充実した活動になっている。しかし本年度は中止や変更になった行事や講演会、体験実習が多く、特にカナダ研修旅行は2年間にわたり中止となるなど、次年度へ向けて計画を練り直す必要がある。</p> <p>② 保護者アンケート項目4等より、9月の南高祭を「中止」と発表したことが、生徒・保護者に大きな喪失感を与えたと考えられる。</p> <p>③ 各教科でより連携を深め、中高6年間の指導及び評価計画をもとに新学習指導要領を実施し、継続してカリキュラム・マネジメントに取り組んでいくことが必要である。</p>
改善策	<p>① 『EGG(総合的な学習の時間)』については、今年度も一人一台端末を活用し、これからの時代に求められる資質・能力を高める内容への変革を図ることに取り組んだが、より興味深い講座やテーマの見直しを引き続き行っていく。</p> <p>② 社会情勢を注視しながら、生徒・保護者・教職員が協力して創意工夫し、学校行事や生徒会活動の充実を目指していく。</p> <p>③ 中高一貫教育校としての教育課程について、年度当初だけでなく定期的に研修を行い、カリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>④ 学校経営アドバイザーによる研修等を生かし、中高6年間の一貫した教育のための授業力向上を図る研修を計画する。</p>

## 2 教育活動の状況

### ■教科指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】4,5,6 生徒9 授業評価 保護者2)

取組	<p>① 8月の休校による授業時数の不足に対応するため、各教科等において指導事項を精選するなど、年間指導計画の見直しを行った。また、感染防止対策と、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現の両立を図るため、新たな授業形態を模索するなど、授業改善に取り組んだ。</p> <p>② 10月に実施した中高合同の授業研究会では、中高の各教科会において生徒の実態や目指す生徒の姿などについて話し合い、6年間で身に付けさせたい資質・能力の共有を図りながら、研究授業と研究協議を行った。</p> <p>③ 「EGG（総合的な学習の時間）」については、校外での活動をともなうプログラムなど、例年通りの実施が困難なものも多かったが、1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのいくつかのプログラムは、計画を変更して実施することができた。また、令和2年度の課題・改善策として挙げられていたカリキュラムの見直しについては、学習指導部を中心に検討を重ね、おもに2年生の「EGGゼミ」のカリキュラムを一部変更して実施した。</p>
成果	<p>① 年間指導計画の見直しにより、授業進捗の状況を例年並みの水準に回復することができた。また、言語活動や観察・実験等を行う際の授業形態を工夫することにより、各教科等において、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すことができた。</p> <p>② 中高合同の授業研究会において、6年間で身に付けさせたい資質・能力の育成について話し合い、実践する機会をもったことにより、6年間を見通した指導の方向性がより明確になり教科のチーム力の向上につながった。</p> <p>③ 1年生の「プロジェクトあしがらアドベンチャー」や「構成的グループエンカウンター研修」などのプログラムが実施できたことは、人間関係の構築やコミュニケーション力の向上のために大変有意義であった。また、「EGGゼミ」のカリキュラムの一部変更については、ねらいや目指す生徒の姿などを踏まえ、学習指導部と当該学年が連携して学習内容を立案し、実施することができた。</p>
課題	<p>① 令和3年度、新学習指導要領の全面実施にあたって、特に学習評価の在り方について教員一人ひとりが理解を深め、各教科等や学校全体で共通理解を図りながら、指導と評価の一体化を進めていくことが必要である。</p>
改善策	<p>① 学習評価に関する資料（『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』など）を活用し、新学習指導要領における学習評価の在り方について、教科主任会や各教科会等で改めて共通理解を図る。併せて、日々の授業や教育課程説明会等において、年間指導計画や単元ごとの指導計画を生徒・保護者に示し、学習評価の目的や方法等についての理解が十分に得られるようにする。</p>

■総合的な探究（学習）の時間の状況

（関連アンケート番号：生徒9）

<p>取組</p>	<p>①今年度よりクロムブックが生徒一人に一台ずつ支給された。どの学年も手探りではあるが、課題探求学習の各段階に利用している。</p> <p>②2年生のEGGゼミを全3期に整理して、課題探求学習の各段階にポイントを置いて活動している。</p> <p>③2年生の英語集中研修を校内実施から、東京グローバルゲイトウェイ（TGG）利用実施に変更した。</p> <p>④2年生の従来の選択EGG講座の代わりに、校内での必修講座を設定した。</p> <p>⑤1年生の最初のEGG体験であるPAAを、4月に校内で実施した。</p> <p>⑥EGG係が中高国際企画部となり、活動するようになった。</p>
<p>成果</p>	<p>①1年生は後期実践的学習の中で、従来ポスターセッション形式で表現していたものを、クロムブックのスライド利用に変更することができた。2年生は第1期で、従来のパワーポイント作りをスライド作りに変更することができた。3年生は卒業研究の各資料作成から、論文作成までをクロムブックで行うことができた。</p> <p>②これまで2年生のEGGが、1、3年生に比べて煩雑だったり、外部の方のお話を聞く機会が少なかったりと課題があったが、昨年度の検討に沿って整理し、新しいカリキュラムを実施することができた。（コロナ感染対策の影響で、もともと計画していた日程や方法に変更が生じている。）</p> <p>③昨年度に引き続き、コロナ感染対策の影響でPAAを足柄で行うことはできなかったが、昨年度の経験を生かして、行事本来の4月に実施することができた。様々な小学校から入学してくる1年生にとって最も適切な時期に行えたことは大きな意義がある。</p> <p>④毎月の中高国際企画部の定例会により、高校TRY&amp;ACTの取り組みについて情報を得られるようになった。</p>
<p>課題</p>	<p>①各学年でクロムブック利用時のルールにばらつきが生じている。</p> <p>②クロムブックで論文等を作成するにあたって、引用資料の吟味や、引用の「コピペ問題」についての指導がこれまで以上に必要である。</p> <p>③資料収集の方法が、ネット検索に偏りすぎないように指導する必要がある。</p>
<p>改善策</p>	<p>①今年度の各学年での使い方を整理して共有し、EGG係から各学年に引き継ぐ。</p> <p>②引用資料の吟味や、引用の「コピペ問題」についての指導は、毎年必ず繰り返し行う。専門の方からお話を聞くEGG講座を設けたい。</p> <p>③EGG講座「情報のタネの見つけ方」が有効と考えられるので、この講座を継続したい。</p>

□生徒会活動・学級指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】7、8 生徒2 保護者4)

取組	<p>① 「附属中学校の生徒会活動の方針」に則って、全職員で学校行事や委員会活動、学級活動の指導にあたった。</p> <p>② 生徒会本部および生徒会企画委員会から「中学生の主体的な活動」を目指す発信をし、種々の取組を実施した。</p> <p>③ 中高連携の生徒会活動のスリム化と充実を図るため、中高の生徒会本部役員による定例会を実施した。</p>
成果	<p>① 各委員会および生徒会本部の活動において、生徒主体で年間活動計画や予算を立てて活動し、日々の活動や行事の企画・運営を行うことで、「中学生としての活動」が充実している。</p> <p>② 生徒会企画で3学年間の生徒の交流会を行うことができた。各学級と生徒会企画委員会での検討を重ねることで、生徒自身が自分たちの手で話し合いながら物事を決定し、運営していくことを学ぶことができた。</p> <p>③ 中高の生徒会本部役員による定例会によって、中高の役員同士の関係が深まり、委員会の活動状況の共有や合同生徒会企画の考案をすることができた。</p>
課題	<p>① 生徒集団のリーダーシップやフォロワーシップの育成は、学級や学年、全校など多角的な視点から行われていくことを全職員が共通認識として持ち続けていくことが必要である。</p> <p>② 生徒評価項目2「生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている」の数値から、評価項目の意図を生徒がきちんと理解できていないことが課題であると考えられる。「生徒会活動」には学校行事や学級係活動なども含まれることを生徒一人ひとりが理解できるよう、多方面から働きかけていく必要がある。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実が課題である。</p>
改善策	<p>① 学級係活動は「一人一役」を前提に、単なるルーティン化や形骸化しないように、年度途中で学級や学年で係活動の振り返りを設定し、生徒自身による活動の充実や創意工夫をうながすなど一層の活発化を目指していく。</p> <p>② 学校行事、学級係活動、委員会活動など具体的な場面や振り返りの中で、生徒の活動を具体的にほめながら、「主体的な生徒会活動」に気づかせていく。</p> <p>③ 中高合同で活動する学校行事や生徒会活動のスリム化と充実に向けて、新高1と新中3が連絡を取りつつ委員会活動を引き継げるよう、次年度以降も中高合同生徒会企画委員会を設定する。また、高2が中高の学校全体に関わる運営を行う一方で、高1と中3がそれぞれの学校の窓口となることを自覚させ、連携のとれた円滑な中高合同の活動となるよう継続して支援していく。</p>

□生徒指導の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】9 生徒3、4 保護者3、5)

<p>取組</p>	<p>① 生活委員会において、委員長を中心に生徒が主体となって議事進行、企画運営を行った。今年度は感染予防のため、学校生活・防犯・安全等について掲示物や各教室で生活委員から生徒全体に呼びかけを行った。</p> <p>② 生活部と養護教諭やSCを交えた生徒指導情報交換会を毎週行い、管理職を交えたいじめ防止対策委員会を月1回以上行い、情報交換と指導方針の確認をした。令和3年度は、SSWとも連携して、生徒のサポートを考えていくことができた。</p> <p>③ 校務分掌がかわり、他のセクション同様、生活部のセクション会が中高合同で開催されるようになった。</p>
<p>成果</p>	<p>① 港南区の防犯サミットに向けて、感染予防のため集会はなかったが、「物の貸し借り」について調査・研究し、報告書を提出した。また、防犯サミットといじめ防止についての発表を生活委員会の担当で検討し、各クラスで発表することで、自分事としてとらえることができた。</p> <p>② 職員反省アンケートで生徒指導の取組がきちんとなされているという項目が「十分に」と「おおむね」で95%だった。生徒理解と情報交換に基づいて、生徒指導ができた。</p> <p>③ 中学校の教員と高校の教員が毎月細かい生徒指導情報の交換ができるようになり、生徒理解が進んだ。</p>
<p>課題</p>	<p>① 令和3年度も、地域の方から登下校時のマナーに関して、ご意見をいただくことがあった。上大岡方面の狭い歩道でのすれ違いやバス車内の混雑などで迷惑をかけてしまっている。日頃からの生徒への呼びかけを今後も続けていく必要がある。</p> <p>② 生徒反省アンケートの、「先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている」という項目で1年生が87.2%、2年生が89.6%、3年生が94.2%という結果で、昨年度に比べて下級生の評価が低い結果となった。</p> <p>③ 教職員反省アンケートの、「生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。」という項目が95.5%から91.7%に下がっている。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 新入生が入学してから早い段階で登下校のルールやマナーについて、学級活動の時間や学年集会などで説明をする。</p> <p>② 新型コロナウイルスに対しての不安やストレスがあると考えられるので、定期的な教育相談を行うことに加えて、日頃から生徒に寄り添った指導を職員一丸となって行っていく。</p> <p>③ 各学年の生活部を中心に、セクション会や情報交換会などで生徒指導の方針の確認をしていきながら、学校全体で生徒指導に取り組む態勢を整えていく。月に1回あるいじめ防止対策委員会、特別支援教育委員会で学年主任とも情報共有を図り、3学年の生活部が連携して、生徒指導にあたっていく。</p>



□保健指導・環境美化の状況

(関連アンケート番号：教職員【教育活動】10、11生徒5、6 保護者6、7)

取組	<p>① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防・感染拡大防止のため、横浜市のガイドラインに従って学校内の消毒の徹底に力を入れた。また毎日の検温と健康観察、手洗い、消毒、マスクの着用等、感染防止の意識向上に力を入れた。さらに、同窓会の協力のもと、各クラス等にアルコール消毒液の設置を行った。</p> <p>② 今年度の学校保健委員会のテーマを「学校生活と菌」に設定し発表を行った。生徒たち自ら課題を見つけ、1～3年生合同のグループに分かれて調べ学習や実験等に取り組んだ。感染拡大が懸念される時期の開催となり、直前で、集合ではなくビデオによる発表に切り替え、各学年の学活等で見てもらい、全校生徒に参加してもらうことができた。また、学校保健計画にある保健教育も一部、講師を招き、実施することができた。</p> <p>③ 昨年度に感染症対策として、ゴミの持ち帰りを継続して行い、高校と連携し、持ち帰りの呼びかけを続けた。また、各階に設置している掃除のゴミ専用のゴミ箱の分別のため、プラスチックゴミ用の袋を用意し、保健美化委員と高校環境美化委員と協力し、分別に努めた。</p>
成果	<p>① 横浜市のガイドラインに従って、全職員で学校内の消毒を適切に行うことができた。また毎日の検温と健康観察、手洗い、消毒、マスクの着用等、生徒の感染防止に対する意識は高く、概ね実施できている。</p> <p>② 保健美化委員会の生徒の、学校保健委員会に向けた取り組みは、グループごとに協力し素晴らしい発表を行った。また生徒たちの達成感も大きく、新型コロナウイルスをはじめ、日常生活の場にいる菌や手洗いの重要性に対して改めて意識する機会となった。保健教育では、1年生に「食」の指導を行い、朝食・昼食だけではなく、飲料についても触れ、校内での自動販売機の利用等について考える機会となった。</p> <p>③ 自分で出したゴミは持ち帰るという習慣が身についたことで、校内のゴミの量が大幅に減少した。</p>
課題	<p>① 感染対策に慣れが出てくることもあり、生徒の意識が薄れ、友達と近距離で触れ合ったり、食事の時間等にマスクを外した状態で談笑したりという場面が見られることもある。今一度、感染対策の重要性について説明、指導していきたい。</p> <p>② 学校保健委員会は日程の変更や発表方法の変更があり、委員会以外の生徒に参加してもらうことが難しくなった。また、保健教育も講師を招いて行うことができなかったものに関しての実施方法について検討の必要がある。</p> <p>③ 各階に設置したゴミ箱内の、ゴミの分別ができていないことが何度かあったため、校内のゴミについて検討していく必要がある。</p>
改善策	<p>① 社会の動向に合わせて、改めて感染防止を意識させるためにも、教職員や委員会生徒等によるこまめに声かけを継続してもらい、保健室からも定期的にほげんだよりや掲示物等を用いて啓発していく。また、家庭との連携がはかれるよう、お便り等で学校での取り組みの様子や啓発内容等を発信する。</p> <p>② 学校保健委員会は急な変更があっても開催できる形式での検討をする必要がある。また、講師や学校医、保護者などとはICT(GoogleMeet等)を使用し、来校せずとも参加してもらえる体制づくり等を考えていきたい。講師を招けない場合でも、必要な保健教育が適切に行えるよう、指導の形態、内容等を検討する。</p> <p>③ 中高で連携し、ゴミ箱の設置や表示の工夫、生徒の委員会活動を通して呼びかけを行うなど対応を工夫する。</p>

### 3 学校経営の状況

#### ■学校教育目標、経営方針の推進状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】12、13 保護者1、2、4)

取組	<p>① 生徒（児童）・保護者に対して、本校開設の経緯や学校教育目標、学校経営の方針について、学校説明会や保護者会、学校だより、5月の教育課程説明会（紙面）等を通して説明を行った。生徒に対して学校教育目標を分かりやすく理解させるために、全学年でその解釈を話し合い、理解を深め、内容を工夫して掲示・発表する活動を続けている。</p> <p>② 中高接続の取組として3年生を対象に生徒・保護者合同の南高校進学説明会を実施し、内進者へ高校教育についての周知と心構えの育成を図った。</p> <p>③ 「豊かな人間性の育成」を目指し、各学年の発達段階に応じて重点項目を決め、道徳や『EGG』、特別活動等で指導した。企画会において、各学年の取組を確認し、3年間のつながりを図った。</p>
成果	<p>① 保護者アンケートでは、学校行事以外のすべての項目において85%以上の評価を受けており、本校の教育活動に一定の理解を得ることができた。</p> <p>生徒アンケート項目10「南高附属中の生徒であることを誇りに思っている」については、3学年共に90%以上の生徒がそう思うと答えており、本校の理念を理解し、前向きに活動に取り組んでいる生徒の姿が表れている。</p> <p>② 教職員評価項目12「学校教育目標の実現に向け、全職員が取り組んでいる」については95%という結果がでた。本校が教育活動の目標に向けて組織的に取り組んでいるということである。</p>
課題	<p>① 保護者から、一人一台端末の活用や、中高連携したカリキュラムについての疑問等が寄せられた。</p> <p>② 教職員評価項目16「会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。」については75%という結果となった。昨年度より10%下がっており、改善が必要である。</p>
改善策	<p>① 一人一台端末を活用することが目的ではなく、授業の質を高める文房具として活用することを目的として取り組んだ1年であったが、保護者の理解を得る努力が充分でなかったと考えられる。日常の教育活動について、説明会という場だけでなく、学校だよりや附属中日記等で発信し周知を図る取組を続けるとともに、本校の一人一台端末の活用場面を、保護者に積極的に発信していく。また、3年生とその保護者を対象に行われている高校進学説明会を南高校への進学意思決定の時期を考慮し、高校の進路指導部と連携して秋に実施していくとともに、教育課程説明会でも説明を行う。</p> <p>② 年度当初に学校経営方針を全職員で確認する研修会を位置づけ、中高一貫教育校の開校にあたっての理念や、それに基づく特色ある教育内容についての共通理解を図る。また、会議を建設的かつ効率的に運営するための手立てを教職員全体で考え、実行していく。</p>

## □職員組織・学年経営の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】14、15、16)

取組	<p>① 定例の学年会、部会（教務・総務・生徒指導・学習指導）、企画会、職員会議を計画的に設定し、議題調整と学年間の情報を事前に共有するようにした。中高とも職員会議はペーパーレスで行うようになった。中高統一の校内組織実施となり、業務の組織対応を進めた。</p> <p>② 企画会を議題調整会議としてだけでなく、管理職と主幹教諭が協働して、学校運営に関わる内容を検討する会議とした。人事決定についても、学年経営が円滑に進むように、積極的に学年主任の意見を取り入れた。</p>
成果	<p>① 教職員評価項目 15「各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行われている」が、95.8%という高い評価となった。学年主任がより広い視野で学年運営を行っていることがうかがわれる。</p> <p>② 職員会議の議題をネットワーク上で事前に共有し、PC画面で会議ができるので、当日の職員会議を効率的に行うことができた。</p>
課題	<p>① 改善はみられるが、教職員評価項目 16「会議が効率的に運営され、教育活動や学校運営の計画等共通理解が図られる場になっている」が 75.0%、教職員評価項目 14「一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である」が 83.3%となっている。</p>
改善策	<p>① ペーパーレスだけに PC を利用するのではなく、オンライン会議の導入など、より会議の効率化を図り、職員の負担感を軽減する努力を続ける。</p> <p>② 中高で統一した校内組織が運用され、さらに改善が進むように取り組みたい。大きく変化する組織に戸惑わないように、企画会を利用し、情報共有をより一層強化する。中高連携に関する業務の軽減を図る。</p> <p>③ 働き方改革の視点から、教育活動の質を維持しつつ内容を精選し、より教育効果の上がる取組を検討する。</p>

## ■職員研修・研究の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】17)

取組	<p>① 校内における授業力向上研修を中高全職員で行った。職員一人ひとりの日々の授業改善に向けた意識の向上を図ると共に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取り組みを各教員及び各教科で行った。また、研修後に教科ごとに分科会をもつことで、6年間を見据えた教科としての新教育課程に向けての取組を話し合うことができた。</p> <p>② 学校経営アドバイザーの高木先生を講師とした中学校高校内研修は2回実施することができた。</p>
成果	<p>① 授業力向上研修の授業者だけでなく、他教科等多くの職員が研究授業に関わることで、自身の授業の在り方について考え、授業改善に取り組むことができた。</p> <p>② 教育課程委員会から独立し、中高研究推進委員会として企画・準備を進めまた、各教科ごとに授業日を設定することで円滑に行うことができた。</p> <p>③ 学校経営アドバイザーによる個別指導を通して、一人ひとりが、より良い授業づくりの方向性について考えることができた。また、高木先生よりアドバイスをいただき新教育課程の情報の共有化を図ると共に、今後の学習活動の方向性などについて改めて考えることができた。</p>
課題	<p>① 各職員の日々の授業改善に向けた意識をさらに向上させ、継続的な授業力向上に向けた取り組みを進めていかなければならない。</p> <p>② 現在の状況等を考慮にいれながら、研修会の時期や持ち方について、中高研究推進委員会で検討を重ねていく必要がある。</p> <p>③ コロナ禍により、講師による授業研究会の実施回数が例年より少なく、講師との連携を深めることが難しい場面があった。来年度の日程を決め、授業力の向上に向けた取り組みをさらに活性化させていく。</p>
改善策	<p>① 次年度も引き続き、校内における研究授業等を行うことで、各職員の授業力向上に向けた取り組みを進めていく。</p> <p>② 研究推進委員会の活動をより活性化させ、全職員が負担なく、日常的に研修を進めていくことができる環境づくりを進めていく。</p> <p>③ 公開授業研究会のより良い在り方について、中高で検討を重ねていく。</p>

□学校経理、施設設備および情報の管理状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】18、19、20、21 生徒9、10 保護者7、8)

取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 配当予算を管理職及び各教科・担当と連携したうえで編成をし、特にコロナ対策を重点とし教育環境の整備を行った。</li> <li>② 公金及び準公金の透明性確保のため、保護者や市民に対して積極的に情報公開を行った。</li> <li>③ 教育委員会の通知等に従い、情報担当及び管理職と情報を共有し、個人情報の保護を適切に行った。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 消毒液の購入及び教科備品の更新を行うなどの要望に応え、95%以上の評価を得ている。</li> <li>② 公金においては本校ホームページ上及び学年だよりにて、準公金においては会計報告書において通知を行い、その結果93%以上の評価を得ている。</li> <li>③ 教育委員会の指示通りに管理を行い、95%以上の評価を得ている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後は、コロナ対策に予算を配分しつつ、物品の整備を管理職及び教科担当と協議し実行する必要がある。</li> <li>② ホームページ及び学年だより等での報告であるため、限られた内容となっており、より分かりやすい情報発信が必要である。</li> <li>③ 情報セキュリティ対策に万全ということではなく、常に情報を更新していく必要がある。</li> </ul>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 予算委員会時だけでなく随時各担当と協議を行い、感染症対策及び教育効果のある物品の整備をしていく。</li> <li>② ホームページ及び学年だよりにての報告の際、執行内容の具体例を数多く入れる等わかりやすい説明を行う。</li> <li>③ 最新の情報を職員に対して迅速に知らせていくだけでなく、個人情報保護の重要性を周知していく。</li> </ul>

□保護者・地域との連携協力の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】22、23)

<p>取組</p>	<p>① 中高一貫教育校として高校と一体の組織で、PTA活動を行っている。 例年は中学校のPTA独自の活動として、PTA中学校懇話会を開催し、情報交換をしていたが、令和2年度に続き令和3年度も中止した。</p> <p>② ②令和2年度に引き続き令和3年度も、PTA主催の研修懇親バス旅行の中止、体育祭等の行事・EGG等の発表会で保護者の参観を呼びかけすることをやめた。</p> <p>③ ホームページや学年だより等で、学校の教育活動の情報提供を行い、保護者、地域等との連携協力を図っている。</p>
<p>成果</p>	<p>① 感染拡大防止のため、PTAとしての活動を行うことはできなかったが、今まで様々な場面でご協力いただいていたことを再認識することができ、必要なこととなくともよいことの再検討をすることができた。</p> <p>② 教職員アンケート質問項目23で、「そう思う」「ややそう思う」が91.7%との評価を得ることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>① 感染症拡大防止のため、様々な活動が制限されてしまう。</p> <p>② 教職員アンケート質問項目23「PTAとの連携・協力の推進が図られている」が70.8%と低かった。</p> <p>③ 感染拡大防止のため、対面で集まることができず、情報発信の機会が限定されてしまう。</p>
<p>改善策</p>	<p>① 感染症拡大防止を第一としながら、「できる人が、できる時に、できる事を！」という本校PTAのキャッチコピーに基づき、活動する。</p> <p>② PTA活動の再開をきっかけとし、保護者との連携を再度強化する。PTA担当職員から他の職員にもPTAとの連携について周知する。</p> <p>③ 学校ホームページ（「附属中日記」）や学校便りなどを活用し、学校の取組や生徒の様子を発信する。</p>

## □危機管理の状況

(関連アンケート番号：教職員【学校経営】24、25生徒10)

取組	<p>① 4月の校内避難経路確認実施後、これまでの避難経路の在り方について見直しを図り、その後各学級において、改めて避難経路の徹底を図った。また、9月に大規模地震発生時の初期対応について、職員研修を行い、その後、各学級において、大規模地震発生時の校舎内における避難の在り方についてシミュレーションを行った。</p> <p>② 校舎内の階段の呼称変更を行い、避難時の混乱防止と生徒の意識の向上に努めた。</p>
成果	<p>① 大規模地震発生時の初期対応について職員研修を行ったことで、災害対策本部を中心とした発災時の各職員の具体的な動きや分担について整理し、周知することができた。</p> <p>② 防災委員会を中心に中高で連携し、各学級・各教室の避難経路の見直しを行った上で、校内の各階段の呼称変更を行い、発災時の避難経路について生徒に改めて周知徹底を図ることができた。</p>
課題	<p>① 大規模地震発生時の初期対応について、定期訓練のみならず、突発的な訓練を行うことで、災害に対する意識を高めるとともに、想定外の事案を訓練の場において生徒・職員共に数多く経験することで、実際に大規模地震等の災害が発生したときの混乱防止に努めていかねばならない。</p> <p>② 防災・減災用の備品の整理や補充を確実にを行い、発災時の物品不足の予防に努める。</p>
改善策	<p>① 今後も引き続き、発災時の対応について整理・改善を行い、その都度職員全体に周知徹底を図っていく。また、様々な訓練のパターンを生徒・職員で経験し、共有することで、各個人の災害に対する意識の向上と、判断力・行動力の育成に努める。</p> <p>② 発災時に必要な物品の情報整理と補充を行う。また、防災委員会を中心に、防災倉庫の点検作業等を定期的に行い、職員間での情報共有を確実にを行う。</p>

## □学校に関する情報公開の状況

(関連アンケート番号：教職員 26 生徒 11 保護者 9)

取組	<p>① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種行事や説明会等が中止となり、保護者・地域の方々に来校していただく機会や、入試に関する広報活動の範囲が限定される状況であったため、メール配信システムや「学校 YouTube チャンネル」など、情報通信技術を活用した情報公開を積極的に行った。また、事前予約制の「学校見学会」を設けるなど、広報活動の充実を図るための新たな取り組みも行った。</p> <p>② 学校ホームページでは、全職員で日々の授業風景や学校生活の様子を紹介していく「附属中日記」を定期的に更新した。また、入学関係情報を適時発信し、本校の受検を考えている児童、保護者に向けても幅広く広報活動を行った。学年だよりでは、学校・学年行事や EGG 学習の様子などを生徒の声とともに掲載し、各家庭や地域に配布した。</p> <p>③ 個人情報の取り扱いについては、年度初めに保護者へ文書を配布して運用のしかたを周知するとともに、学校ホームページに個人が特定される情報を公開しないなど、適切に管理した。</p> <p>④ 学校運営協議会における学校評価や生徒、保護者学校評価の結果を公開し、開かれた学校づくりに努めた。</p>
成果	<p>① 学校説明会の配信動画は 3200 回以上再生され(2022 年 1 月現在)、多くの方々に本校の取り組みや教育活動の成果を知っていただくことができた。また、情報通信技術の活用など、情報公開や広報活動の今後の在り方について模索する良い機会となった。</p> <p>② 学校評価の「ホームページや各種たより等での情報公開」の項目において、生徒、保護者ともに 90%以上の評価を得た。学年だよりでは登下校のマナーなど、地域からの連絡に対応した 3 学年共通紙面をつくり、地域における附属中学校の課題およびその取り組みを、各家庭や諸機関に伝えることができた。</p> <p>③ 個人情報の適切な管理に努め、職員学校評価における「情報管理」の項目で 98.4%の高い評価を得た。</p>
課題	<p>① GIGA スクール構想による一人一台の端末の整備が行われ、日々の授業等において活用される場面が多くなってきた。一方で、分散登校期間におけるオンライン授業等、学校と家庭との「双方向」の情報通信については万全の準備が整っているとはいえない状況であり、今後の突発的な事態に備えて、教職員の ICT 活用能力の向上や、運用のためのしくみづくりを進めていく必要がある。</p>
改善策	<p>① 教職員の ICT 活用能力(特に、学校と家庭との「双方向」の情報通信に関するスキル)の向上を目的とした校内研修を行う。また、Google クラウドや Google ミートなどのアプリケーションを日々の教育活動において積極的に活用し、生徒の ICT 活用能力の向上も促していく。</p>



#### 4 いじめへの対応に関する項目

##### □いじめへの対応

(関連アンケート番号：教職員 27 生徒 3、4 保護者 3)

取 組	<p>① 職員によるいじめ防止対策委員会を月1回開催し、各学年の生徒情報共有や、学校いじめ防止基本方針の改訂について話し合った。</p> <p>② いじめに関するアンケートを12月に横浜市の統一書式により無記名で実施した。5月と11月に記名式のアンケート（QU）を行った。新型コロナウイルスに関係した生活アンケートを10月に実施した。</p> <p>③ 生徒の環境の変化や長期休業明けを考慮して、全クラス担任による教育相談を実施した。より安心して充実した学校生活に向け、校長代理による面談を1年生を対象として行った。</p> <p>④ 学級活動や道徳、総合的な学習の時間でコミュニケーション力を高め、安心して生活できる環境づくりをおこなった。</p> <p>⑤ 生活委員会の生徒がいじめ防止の取り組みを行った。</p>
成 果	<p>① いじめ防止基本法の定義に基づき、いじめはどこにでも起こりうるということの共通認識のもと、職員による情報収集をした。いじめ防止対策委員会でいじめに関する情報を共有し、チームとして対応することができた。</p> <p>② 各種アンケートの結果から客観的なデータと普段の先生方の見取りとを合わせて、生徒理解を深めることができた。</p> <p>③ 教育相談により、生徒と担任の関係を築くことができ、何か困ったことがあったときに安心して相談できるようにした。</p> <p>④ グループワークトレーニングにより、仲間と協力して課題解決する姿勢ができた。</p> <p>⑤ 生活委員会の生徒がいじめについて発表することで「自分事」としてとらえ、生徒自らがいじめ防止に取り組む意識を育むことができた。</p>
課 題	<p>① 令和3年度のいじめ認知件数は3件であった。</p> <p>② 教職員アンケート27「いじめへの対応」で「十分に」と「おおむね」で100%を達成できたが、「おおむね」が多く54.2%であった。</p>
改善策	<p>① いじめはどこにでも起こりうるという共通認識をもち積極的に認知していく。</p> <p>② 普段の授業で行っているグループワークや道徳、『EGG』などがコミュニケーション力の育成につながり、いじめの未然防止につながることを職員が今一度意識し、授業・取り組みのねらいを伝え生徒にも意識付けを行う。</p>

令和3年度

横浜市立高等学校  
及び  
併設型中学校

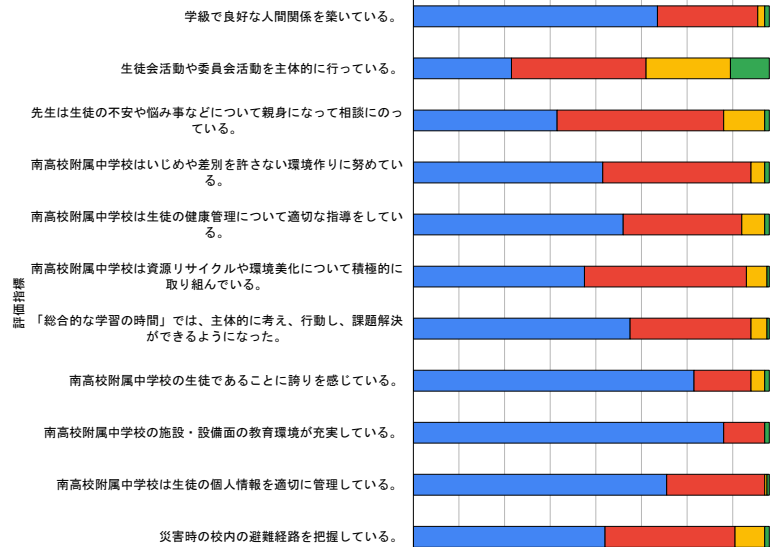
自己評価書資料  
学校評価アンケート集計表

生徒アンケート  
保護者アンケート  
職員アンケート  
各教科授業評価

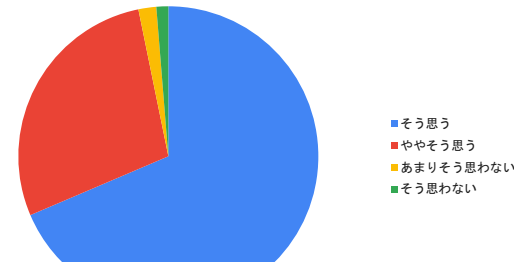
横浜市立南高等学校附属中学校

令和3年度生徒学校評価【1年生】南高等学校附属中学校					回答集計											156名		
回収率					番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う・ややそう思う合計
生徒	1年1組	40	40	100.0%	1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	107	44	3	2	156		68.6%	28.2%	1.9%	1.3%	96.8%
	1年2組	40	40	100.0%	2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	43	59	37	17	156		27.6%	37.8%	23.7%	10.9%	65.4%
	1年3組	40	36	90.0%	3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	63	73	18	2	156		40.4%	46.8%	11.5%	1.3%	87.2%
	1年4組	40	40	100.0%	4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	83	65	6	2	156		53.2%	41.7%	3.8%	1.3%	94.9%
	1年合計	160	156	97.5%	5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	92	52	10	2	156		59.0%	33.3%	6.4%	1.3%	92.3%
					6	学校生活などについて	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	75	71	9	1	156		48.1%	45.5%	5.8%	0.6%	93.6%
					7		「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	95	53	7	1	156		60.9%	34.0%	4.5%	0.6%	94.9%
					8		南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	123	25	6	2	156		78.8%	16.0%	3.8%	1.3%	94.9%
					9		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	136	18	0	2	156		87.2%	11.5%	0.0%	1.3%	98.7%
					10		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	111	43	1	1	156		71.2%	27.6%	0.6%	0.6%	98.7%
					11	災害時の校内の避難経路を把握している。	84	57	13	2	156		53.8%	36.5%	8.3%	1.3%	90.4%	
					12	南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	87	63	5	1	156		55.8%	40.4%	3.2%	0.6%	96.2%	

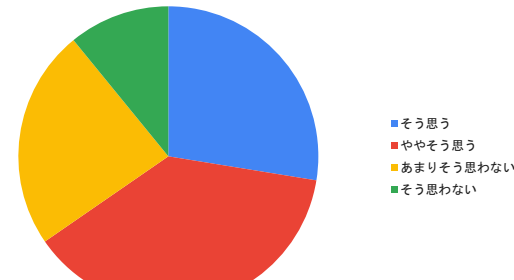
令和3年度 南高等学校附属中学校 1年 学校評価



学校で良好な人間関係を築いている。



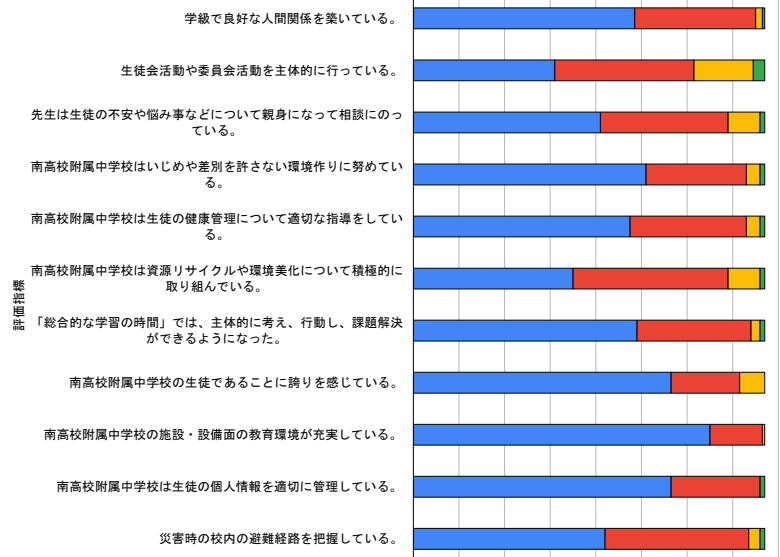
生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。



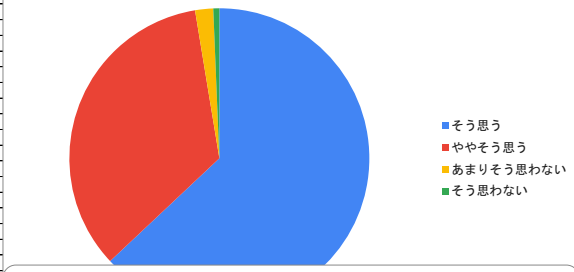


令和3年度生徒学校評価【2年生】南高等学校附属中学校																		
回収率				回答集計											154名			
	依頼数	回答数	回収率	番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う・ややそう思う合計	
生徒	2年1組	40	38	95.0%	1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	97	53	3	1	154		63.0%	34.4%	1.9%	0.6%	97.4%
	2年2組	40	39	97.5%	2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	62	61	26	5	154		40.3%	39.6%	16.9%	3.2%	79.9%
	2年3組	39	37	94.9%	3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	82	56	14	2	154		53.2%	36.4%	9.1%	1.3%	89.6%
	2年4組	40	40	100.0%	4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	102	44	6	2	154		66.2%	28.6%	3.9%	1.3%	94.8%
	2年合計	159	154	96.9%	5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	95	51	6	2	154		61.7%	33.1%	3.9%	1.3%	94.8%
					6	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	70	68	14	2	154		45.5%	44.2%	9.1%	1.3%	89.6%	
					7	「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	98	50	4	2	154		63.6%	32.5%	2.6%	1.3%	96.1%	
					8	学校生活などについて	南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	113	30	11	0	154		73.4%	19.5%	7.1%	0.0%	92.9%
					9		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	130	23	1	0	154		84.4%	14.9%	0.6%	0.0%	99.4%
					10		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	113	39	0	2	154		73.4%	25.3%	0.0%	1.3%	98.7%
					11		災害時の校内の避難経路を把握している。	84	63	5	2	154		54.5%	40.9%	3.2%	1.3%	95.5%
					12		南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	101	49	4	0	154		65.6%	31.8%	2.6%	0.0%	97.4%

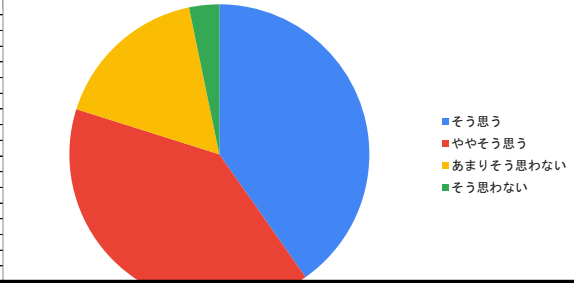
令和3年度 南高等学校附属中学校 2年 学校評価



学校で良好な人間関係を築いている。



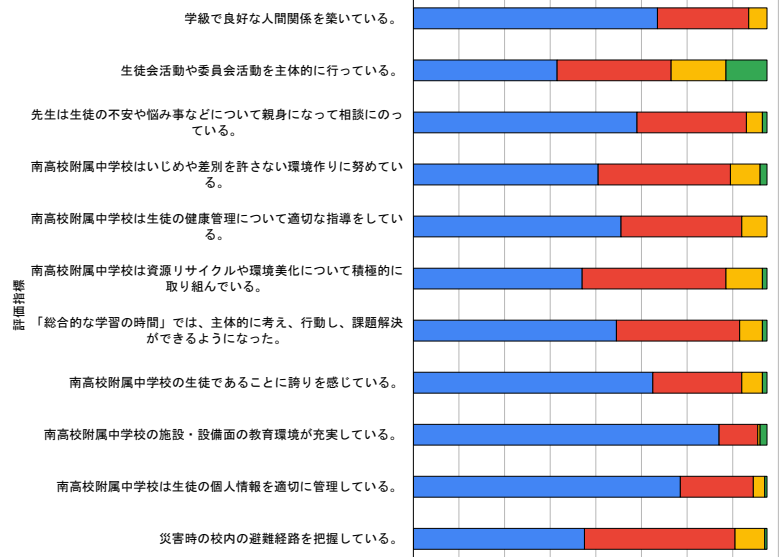
生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。



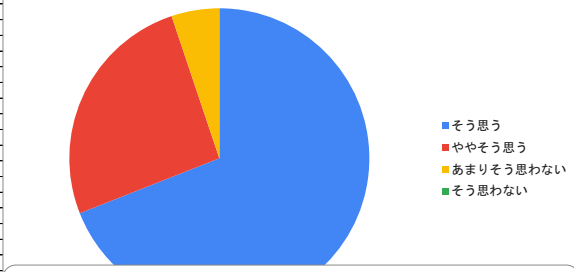


令和3年度生徒学校評価【3年生】南高等学校附属中学校																		
回収率				回答集計											155名			
	依頼数	回答数	回収率	番号	項目	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	合計	70%目標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う・ややそう思う合計	
生徒	3年1組	40	37	92.5%	1	教育活動等について	学級で良好な人間関係を築いている。	107	40	8	0	155		69.0%	25.8%	5.2%	0.0%	94.8%
	3年2組	40	39	97.5%	2		生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。	63	50	24	18	155		40.6%	32.3%	15.5%	11.6%	72.9%
	3年3組	40	40	100.0%	3		先生は生徒の不安や悩み事などについて親身になって相談にのっている。	98	48	7	2	155		63.2%	31.0%	4.5%	1.3%	94.2%
	3年4組	40	39	97.5%	4		南高校附属中学校はいじめや差別を許さない環境作りに努めている。	81	58	13	3	155		52.3%	37.4%	8.4%	1.9%	89.7%
	3年合計	160	155	96.9%	5		南高校附属中学校は生徒の健康管理について適切な指導をしている。	91	53	11	0	155		58.7%	34.2%	7.1%	0.0%	92.9%
					6	学校生活などについて	南高校附属中学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる。	74	63	16	2	155		47.7%	40.6%	10.3%	1.3%	88.4%
					7		「総合的な学習の時間」では、主体的に考え、行動し、課題解決ができるようになった。	89	54	10	2	155		57.4%	34.8%	6.5%	1.3%	92.3%
					8		南高校附属中学校の生徒であることに誇りを感じている。	105	39	9	2	155		67.7%	25.2%	5.8%	1.3%	92.9%
					9		南高校附属中学校の施設・設備面の教育環境が充実している。	134	17	1	3	155		86.5%	11.0%	0.6%	1.9%	97.4%
					10		南高校附属中学校は生徒の個人情報を適切に管理している。	117	32	5	1	155		75.5%	20.6%	3.2%	0.6%	96.1%
					11	災害時の校内の避難経路を把握している。	75	66	13	1	155		48.4%	42.6%	8.4%	0.6%	91.0%	
					12	南高校附属中学校は学校ホームページや学年便り等を活用し、必要な情報を提供している。	107	39	5	4	155		69.0%	25.2%	3.2%	2.6%	94.2%	

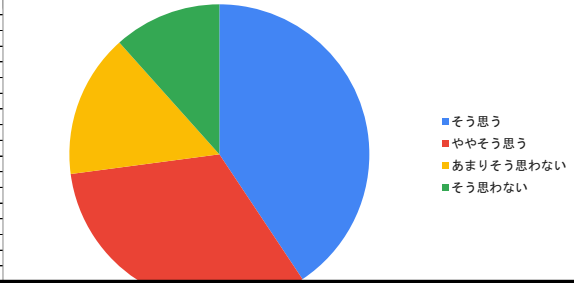
令和3年度 南高等学校附属中学校 3年 学校評価



学校で良好な人間関係を築いている。



生徒会活動や委員会活動を主体的に行っている。







令和3年度 保護者による学校評価 1年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない	そう思う・やや そう思う
教育活動等について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	60.3%	32.9%	5.5%	0.7%	0.7%	93.2%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	56.2%	37.0%	5.5%	0.7%	0.7%	93.2%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	64.4%	30.8%	2.1%	0.7%	2.1%	95.2%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	36.3%	44.5%	13.0%	2.1%	4.1%	80.8%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	48.6%	41.1%	5.5%	0.7%	4.1%	89.7%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	44.5%	39.0%	8.2%	0.0%	8.2%	83.6%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	48.6%	37.0%	2.1%	0.0%	12.3%	85.6%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	69.9%	22.6%	0.7%	0.0%	6.8%	92.5%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	53.4%	37.0%	7.5%	0.7%	1.4%	90.4%

令和3年度 保護者による学校評価 2年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない	そう思う・やや そう思う
教育活動等 について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	41.8%	43.1%	11.8%	2.6%	0.7%	85.0%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	41.8%	43.8%	9.8%	3.3%	1.3%	85.6%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	58.2%	31.4%	9.2%	0.7%	0.7%	89.5%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	34.0%	43.8%	20.3%	1.3%	0.7%	77.8%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	43.8%	45.1%	8.5%	0.0%	2.6%	88.9%
学校生活等 について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	43.1%	43.8%	9.2%	0.0%	3.9%	86.9%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	54.2%	35.9%	3.3%	0.0%	6.5%	90.2%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	70.6%	24.8%	0.7%	0.7%	3.3%	95.4%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	46.4%	41.2%	11.1%	1.3%	0.0%	87.6%

令和3年度 保護者による学校評価 3年 南高等学校附属中学校

項目	No.	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない	わからない	そう思う・やや そう思う
教育活動等について	1	中高一貫教育校として特色ある教育活動など、適切な取り組みをしている。	46.9%	46.2%	5.5%	0.7%	0.7%	93.1%
	2	南高校・南附属中学校の教育課程は充実したものになっている。	46.9%	43.4%	7.6%	1.4%	0.7%	90.3%
	3	お子さんは学級で良好な人間関係を築き、充実した生活を送っている。	57.2%	33.1%	4.1%	4.1%	1.4%	90.3%
	4	学校行事や生徒会活動は充実し、お子さんは積極的に参加している。	35.2%	44.1%	15.2%	5.5%	0.0%	79.3%
	5	生活習慣や規範意識を身につけさせるための適切な指導が行われている。	30.3%	50.3%	13.1%	3.4%	2.8%	80.7%
学校生活等について	6	生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている。	35.2%	46.9%	11.0%	0.7%	6.2%	82.1%
	7	校内の環境美化に力を入れ、教育環境がきちんと管理されている。	49.0%	42.1%	4.1%	0.0%	4.8%	91.0%
	8	各種会計報告が適切に行われている。	71.7%	21.4%	1.4%	0.0%	5.5%	93.1%
	9	学校の様子を家庭への配布資料や学校ホームページなどを通じて十分かつ適切に伝えている。	51.0%	41.4%	6.9%	0.0%	0.7%	92.4%

令和3年 教職員による学校評価 南高等学校附属中学校  
(様式1)

大分類	No	評価項目	観点	評価指標	十分に実現できている	おおむね実現できている	あまり実現できていない	全く実現できていない	判断できない	十分に/おおむね実現できている	令和2年度
教育活動	1	第3期横浜市教育振興基本計画		「魅力ある学校教育の推進」に向けて学校全体として取り組んでいる。	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	95.5%
	2	教育課程	編成	学校教育目標・学校経営目標を踏まえて編成されている。	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	3		取組	学習指導要領の趣旨及び横浜市の方針に基づき、さらに中期学校経営方針に掲げた目標の実現を目指して編成し、取り組んでいる。	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	4	教科指導	指導計画	学校教育目標・重点目標の実現に向け適切な計画を作成している。	41.7%	58.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
	5		取組	私の所属している教科は生徒の実態に応じて、指導内容や指導方法を工夫してわかりやすい授業を行っている。	41.7%	50.0%	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%	95.5%
	6		評価評定	観点別評価規準を明確にした年間計画を立て、それに基づき適切な方法で評価・評定を行っている。	16.7%	70.8%	8.3%	0.0%	4.2%	87.5%	90.9%
	7	特別活動 部活動	取組	生徒の主体的、自立的な生徒会活動の活性化に向けて適切に指導している。	29.2%	58.3%	8.3%	0.0%	4.2%	87.5%	95.5%
	8	ホームルーム活動		生徒が人間関係を円滑に結び、充実した学校生活を送ることができるよう基礎的な生活集団の形成に資するホームルーム経営を行うことができている。	29.2%	66.7%	0.0%	0.0%	4.2%	95.8%	90.9%
	9	生徒指導		生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行っている。	33.3%	58.3%	4.2%	0.0%	4.2%	91.7%	95.5%
	10	保健指導		学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している。	33.3%	58.3%	4.2%	0.0%	4.2%	91.7%	95.5%
	11	環境美化		資源リサイクル等省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる。	16.7%	70.8%	8.3%	0.0%	4.2%	87.5%	72.7%
学校経営	12	学校教育目標		学校教育目標の実現に向け、全教職員が取り組んでいる。	29.2%	66.7%	4.2%	0.0%	0.0%	95.8%	95.5%
	13	学校経営方針		学校経営方針に基づき、教職員が協力して円滑な学校経営がなされている。	25.0%	70.8%	4.2%	0.0%	0.0%	95.8%	95.5%
	14	職員組織 (校務分掌も含む)		一人ひとりの教職員が意欲をもって業務に取り組むことができる組織である。	33.3%	50.0%	12.5%	0.0%	4.2%	83.3%	90.9%
	15	学年経営		各学年の運営は、情報が共有され組織的取組が円滑に行なわれている。	41.7%	54.2%	0.0%	0.0%	4.2%	95.8%	100.0%
	16	職員会議等		会議は効率的に運営されており、教育活動や学校運営の計画等の共通理解が図られる場となっている。	16.7%	58.3%	20.8%	0.0%	4.2%	75.0%	86.4%
	17	研究・研修		教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、校内の研究・研修体制が整えられている。	20.8%	62.5%	16.7%	0.0%	0.0%	83.3%	81.8%
	18	学校経理	予算編成	予算委員会などの組織を設けて、予算が適切に立てられている。	54.2%	37.5%	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%	95.5%
	19		会計報告	公金、準公金ともに透明性が確保され、保護者や市民に対する説明責任を果たしている。	50.0%	37.5%	0.0%	0.0%	12.5%	87.5%	90.9%
	20	学校施設 設備		教室、特別教室、体育施設等は学習や生活がしやすいように管理が適切になされている。	29.2%	62.5%	8.3%	0.0%	0.0%	91.7%	95.5%
	21	情報管理		個人情報の管理が適切である。	41.7%	54.2%	4.2%	0.0%	0.0%	95.8%	95.5%
	22	保護者・地域等との 連携協力	PTA活動	PTAとの連携・協力の推進が図られている。	16.7%	54.2%	16.7%	0.0%	12.5%	70.8%	86.4%
	23		地域等との 連携協力	学校の教育活動の情報提供・説明が十分になされ、活動に対する理解が得られている。	20.8%	70.8%	8.3%	0.0%	0.0%	91.7%	90.9%
	24	危機管理	安全対策	学校安全計画に沿って適正に実施されている。	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	0.0%	91.7%	95.5%
	25		防災対策	学校防災計画に沿って、緊急避難場所や避難経路・避難方法等の周知徹底がなされている。	29.2%	58.3%	12.5%	0.0%	0.0%	87.5%	95.5%
	26	情報公開		募集に関する学校説明会や学校情報に関する広報活動が適切に行われている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
いじめに関する項目	27	いじめへの対応		いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に組織的に取り組んでいる。	45.8%	54.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%

令和3年度生徒授業評価  
中1国語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	20.5%	57.7%	19.9%	1.9%	78.2%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	46.8%	41.7%	10.3%	1.3%	88.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	50.0%	45.5%	3.2%	1.3%	95.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	67.9%	28.8%	1.9%	1.3%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	73.1%	24.4%	1.9%	0.6%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.6%	21.8%	1.3%	1.3%	97.4%
	7	発問や説明は適切である。	64.1%	32.7%	2.6%	0.6%	96.8%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	58.3%	37.8%	3.2%	0.6%	96.2%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	58.3%	36.5%	3.2%	1.9%	94.9%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	77.6%	18.6%	1.3%	2.6%	96.2%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生徒が主体的に国語学習に取り組めるよう、言語活動を取り入れ、「思考力、判断力、表現力」を育てる授業実践を行った。(項目2・3)
- ②単元のはじめに学習プランを提示し、その単元で身につける資質・能力を、生徒と共有して授業を行った。(項目2・3・4・6)
- ③漢字や言語に関する基礎的な知識が定着するよう、小テストを計画的に実施し、解き直しを課題とした。また、基礎力診断テストでは、規準点に達するまで再テストや解き直しなどの課題を出した。(項目1・3・5)
- ④全学年で「読書マラソン」を行い、楽しみながら読書に親しめるよう指導をした。(項目1・2)
- ⑤全学年で新聞社説の視写を家庭学習の課題とし、読解力・表現力育成の一助とした。(項目1・6)

(b) 成果

- ①さまざまな言語活動を取り入れた授業を通して生徒が主体的に国語学習に取り組み、思考力、判断力、表現力向上させることができた。
- ②単元のはじめに、身に付けたい資質・能力を明確にすることで、生徒と教師がねらいを共有し、効果的に学習を進めることができた。
- ③小テストの計画的な実施と解き直しによって、漢字や語句の知識が身につけていった。
- ④「読書マラソン」の継続によって、読書の楽しみに気づき、読書に親しむことができた。
- ⑤新聞社説の視写を継続的に行うことによって、読解力・表現力育成の一助とすることができた。

(c) 課題

授業評価については、おおむね満足できる状況である。  
ただし、項目1の予習復習に関して、他の項目よりやや数値が低いことが課題である。  
言語活動では、常に生徒の学習意欲を引き出すための「問いづくり」を工夫することが課題と言える。

(d) 改善策

項目1の予習・復習については、家庭学習によって、授業で学習したことが定着することを生徒自身が自覚するよう指導していく。  
また、家庭学習の内容を限定的に考えず、新聞の社説の視写や読書の継続が、総合的な国語力の向上に有効であることを理解して取り組むことの重要性を生徒に伝えていく。  
そして、生徒の主体的な学びに繋がるよう、興味・関心をもって学習に取り組めるような「問いづくり」を、常に工夫していく。

令和3年度生徒授業評価  
中1社会 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思 う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	35.5%	47.1%	15.5%	1.9%	82.6%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	58.7%	33.5%	7.1%	0.6%	92.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	55.5%	34.8%	9.0%	0.6%	90.3%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	75.5%	21.3%	2.6%	0.6%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.1%	12.3%	0.0%	0.6%	99.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	81.3%	17.4%	0.6%	0.6%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	83.9%	15.5%	0.0%	0.6%	99.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	88.4%	11.0%	0.0%	0.6%	99.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	76.8%	21.3%	0.6%	1.3%	98.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	87.1%	11.0%	1.9%	0.0%	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

中学校社会科の学習を進めていくにあたり、小学校時代の学習内容による格差を生み出さぬよう、これまで習得した知識に依存した学習に偏るのではなく、様々な資料の読み取りから思考を深めていく学習活動の構築を進めてきた。歴史的分野では、知識の習得はもちろんのこと、一方で、資料に基づいた単純な書き写し作業から、自身の思考を文章化する等、様々な記述活動に重点を置いた取り組みを進め、自らの考えを他者に伝える手法についても重点的に学習を積み重ねてきた。

(b) 成果

初見資料を数多く使用したことで、生徒の学習意欲を喚起し、各学級で良好な雰囲気のもと、学習活動を進めることができた。特に今年度は、生徒たちの「独り学び」と「グループワーク」の使い分けが素晴らしく、メリハリのある学習活動を生徒たちがつくり上げることができた。また、今年度は、必須ではないものの、自宅学習用として課していた記述課題に一部の生徒たちが例年以上に意欲的に取り組み、継続的な評価と支援を行うことができたと感じている。

(c) 課題

自宅での学習に意欲的に取り組んだ生徒がいる一方で、自宅での予習・復習や、日々の授業に対する主体性や積極性にまだまだ課題が残されている。また、年間の学習計画の周知や、生徒たちとの関係構築の面で、「公平さ」については他の項目と比較して課題が見受けられる。年間計画等については、その都度、学習の進捗状況を生徒に伝え、生徒に対する声の掛け方などについては、今一度自分自身を見直し、個々に応じた適切な指導や助言の在り方を心掛けていきたい。

(d) 改善策

生徒の学習意欲を高め、自宅等で継続的に学習を積み重ねていくことができるよう、次年度以降は、自宅学習用の課題を適切に与え、一部評価に繋げる等の働きかけをこれまで以上に行っていきたい。質問の有無を細やかに確認し、生徒たちの授業に対する安心感を高めていくことも必要である。また、年度当初だけでなく、その都度生徒に学習計画や単元計画等を明確に伝え、学習の進捗状況を生徒たちがしっかりと把握することができるよう、改善を図っていきたい。

令和3年度生徒授業評価  
中1数学 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.6%	47.4%	8.3%	0.6%	91.0%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	58.3%	34.6%	7.1%	0.0%	92.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	60.3%	36.5%	2.6%	0.6%	96.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	59.6%	35.3%	5.1%	0.0%	94.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	74.4%	23.7%	1.3%	0.6%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	69.2%	30.1%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	71.2%	27.6%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	70.5%	27.6%	1.3%	0.6%	98.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	54.5%	39.1%	5.8%	0.6%	93.6%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	75.0%	23.1%	1.3%	0.6%	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。完成ノートテストを小単元ごとに行い、知識・技能の定着を図る。
- ③定期テスト、基礎力診断テストの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。
- ④基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、補習、課題の提出と再試験を実施する。
- ⑤単元毎に学びの足跡を用い、生徒自身が何を学んだのか、現在地を把握できるようにする。
- ⑥授業内での「問い」の設定を大切にし、生徒の「なぜ？」をもたせるように授業を展開する。
- ⑦生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行う。

(b) 成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②日々生徒の完成ノートの進捗状況を確認することができ、小テストの実施が学力の向上につながった。
- ③個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
- ④基礎的な力の定着につながった。
- ⑤学びの足跡を使うことで、生徒自身が単元の中で現在地を知る。
- ⑥誰もが「なぜ？」をもてる「問い」の設定を行ったことで、数学の得意な生徒もそうでない生徒もともに議論し練り上げながら授業づくりができた。
- ⑦質問3で96.8%という結果を得られた。

(c) 課題

- ・質問1で、日々授業の復習をする習慣を身につけさせること。
- ・正確な計算力にやや課題を抱える生徒がみられること。
- ・ペア活動、グループ活動等を、質問しやすい活動にしていくこと。

(d) 改善策

- ・復習の仕方や内容に対する指導を重点的に行う。生徒の発見を大切にするため、予習ではなく復習に重点を置く。
- ・定期的に完成ノートテストを続けること、基礎的な計算練習を行わせることで、改善を図る。
- ・「どこまでわかるのか」を問い、わからない部分を明確にして質問しやすいように指導する。

令和3年度生徒授業評価  
中1理科 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	35.3%	48.1%	16.0%	0.6%	83.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	59.0%	36.5%	3.8%	0.6%	95.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	62.8%	34.6%	1.9%	0.6%	97.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	59.6%	35.3%	5.1%	0.0%	94.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	66.7%	28.2%	4.5%	0.6%	94.9%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	68.6%	29.5%	1.3%	0.6%	98.1%
	7	発問や説明は適切である。	68.6%	30.1%	1.3%	0.0%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	64.1%	32.7%	3.2%	0.0%	96.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	73.7%	24.4%	1.3%	0.6%	98.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	82.7%	14.1%	1.3%	1.9%	96.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題を設けた。
- ②単元ごとに時間数の見通しをもって授業計画を立て、授業を行った。
- ③実験や観察を中心とした授業を展開し、より科学を身近に感じられるよう授業を展開した。

(b) 成果

- ①課題によって、家庭学習に取り組み、復習をする生徒の割合が高くなった。
- ②分散登校が1か月あり授業の進度が少し遅れてしまった。
- ③実験や観察をより多く取り入れ科学的に探究する力を育成することができた。

(c) 課題

- ・分散登校やコロナの影響をあり、実験や観察の回数が例年よりも少なかった。工夫をし実験ができる方法を考えていく必要がある。

(d) 改善策

- ・消毒の徹底や、道具の数を増やして共有する場面を減らすことなどで、生徒自身が実験に取り組める環境をつくる。



令和3年度生徒授業評価  
中1音楽 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う やや そう 思 う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	28.6%	48.7%	20.1%	2.6%	77.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	55.8%	39.0%	5.2%	0.0%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	46.8%	45.5%	7.1%	0.6%	92.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	43.5%	42.2%	13.0%	1.3%	85.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	65.6%	30.5%	3.2%	0.6%	96.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	59.7%	35.7%	4.5%	0.0%	95.5%
	7	発問や説明は適切である。	63.0%	34.4%	2.6%	0.0%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	60.4%	33.8%	5.2%	0.6%	94.2%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	61.0%	35.1%	2.6%	1.3%	96.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	74.0%	20.8%	4.5%	0.6%	94.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。

(b) 成果

1. コロナ禍における教育制限の中、曲に対する理解は深めることが出来た。
2. 多種の小学校から集まっているので基礎の初めから確認したことはよかった。
3. より深い表現をするのに役立った。

(c) 課題

1. コロナ禍における表現力の説明について情報を収集すべきである。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和3年度生徒授業評価  
中1美術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	27.9%	35.1%	26.0%	11.0%	63.0%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	57.8%	37.7%	3.9%	0.6%	95.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	53.9%	37.7%	8.4%	0.0%	91.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	46.1%	34.4%	15.6%	3.9%	80.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	55.2%	38.3%	6.5%	0.0%	93.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	52.6%	40.3%	7.1%	0.0%	92.9%
	7	発問や説明は適切である。	56.5%	38.3%	5.2%	0.0%	94.8%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	52.6%	35.7%	11.0%	0.6%	88.3%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	51.9%	38.3%	9.7%	0.0%	90.3%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	71.4%	24.0%	4.5%	0.0%	95.5%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

表現の基礎を理解させるように進めていった。

(b) 成果

一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。

(c) 課題

個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。

(d) 改善策

個別に丁寧にアドバイスをしていく。

令和3年度生徒授業評価  
中1保健体育 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	33.8%	44.2%	18.2%	3.9%	77.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.7%	31.8%	5.2%	1.3%	93.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	48.1%	39.0%	11.7%	1.3%	87.0%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	69.5%	26.0%	4.5%	0.0%	95.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	72.7%	25.3%	0.6%	1.3%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	69.1%	28.9%	2.0%	0.0%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	60.4%	33.1%	5.8%	0.6%	93.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	57.8%	34.4%	7.1%	0.6%	92.2%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	59.1%	33.1%	5.8%	1.9%	92.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	62.3%	27.3%	8.4%	1.9%	89.6%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
- ②感染症対策として、授業集団を通常の3分の1の人数に分けて実施した。また、分散登校中は家庭で取り組める運動や個人で手軽に行えるエクササイズを多く取り入れた。

(b) 成果

- ①授業評価では、どの項目もおおむね高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒が増えてきたことがうかがえる。
- ②生徒一人ひとりへの声掛けの機会が増え、個に応じた指導を充実させることができた。家庭でのエクササイズを継続的に取り組んでいる生徒が一部いる。

(c) 課題

- ①運動への苦手意識が、そのまま授業への取り組みに影響し、消極的になる生徒がいた。
- ②新体力テストの結果が全国平均より下回る種目が多くある。特に筋力、瞬発力。

(d) 改善策

- ①運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていく。
- ②例年行っていた「サーキットトレーニング」を授業の始めに取り入れ、個々の課題や目標にあった運動で体力の向上を目指す。

令和3年度生徒授業評価  
中1技術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	27.3%	37.0%	27.9%	7.8%	64.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	44.2%	38.3%	15.6%	1.9%	82.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	34.4%	37.7%	26.0%	1.9%	72.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	44.8%	32.5%	19.5%	3.2%	77.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	42.2%	31.8%	20.1%	5.8%	74.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	45.5%	37.7%	14.3%	2.6%	83.1%
	7	発問や説明は適切である。	44.2%	33.8%	18.2%	3.9%	77.9%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	46.8%	31.2%	20.1%	1.9%	77.9%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	37.0%	32.5%	22.1%	8.4%	69.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	55.8%	33.1%	7.1%	3.9%	89.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①パソコンを基礎学習を発展させる教材とし使っている

課題学習を意識し行っています。

②自己の考え、表現が個性を生かせるロボットの制御プログラムを取り入れた

(b) 成果

①興味を持ち積極的にパソコンに取り組んでいる。

②楽しんで表現操作し、相互に教えあえる環境を作れる。

③ワープロの授業を増やしたことによりPCの利用範囲が広がっています

(c) 課題

①相互方向の機器の働きの重点化に更に取り組みたい。

②携帯電話の普及により情報入力の方法の違いとモラルの課題を考えたい

③情報伝達と制御の関連性を検討する必要がある

(d) 改善策

①スマートフォンとパソコンの使い道の違いと目的をはっきり区別させる

②プログラムの組み立て構成を進める

令和3年度生徒授業評価  
中1家庭 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.5%	40.9%	14.9%	0.6%	84.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	62.3%	34.4%	2.6%	0.6%	96.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	61.7%	36.4%	1.3%	0.6%	98.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	56.5%	37.0%	5.2%	1.3%	93.5%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	71.4%	24.7%	3.2%	0.6%	96.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	63.6%	32.5%	3.9%	0.0%	96.1%
	7	発問や説明は適切である。	68.8%	27.3%	3.9%	0.0%	96.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	63.0%	31.8%	4.5%	0.6%	94.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	64.3%	29.2%	5.8%	0.6%	93.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	71.4%	20.8%	5.8%	1.9%	92.2%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- 新型コロナの流行状況に応じて、授業計画を変更しながら、授業を進めた。
- 生活に必要な衣・食・住と幅広い内容を日常生活に結び付け、実習と組み合わせて考える授業を展開したが、実習時間の確保が難しいところもあった。

(b) 成果

- 臨機応変に授業計画を変更したことにより、食生活分野の実習時間を確保することができた。
- 生活技術がしっかりと身につけているといえる生徒は多くはないが、日常生活と結び付けて授業を展開したことで、授業に対する興味関心は全体的に高くなっている。

(c) 課題

- 授業時間数が少なく、生活技術を定着させるためには繰り返しの練習が必要であるが、その時間を十分に確保することができない。
- 例年のことではあるが、10月から技術の授業から家庭科の授業に代わり、数回の授業で授業評価を行うのは厳しいと感じる。

(d) 改善策

- 生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるような授業内容や技術の習得意欲が高まる授業内容を考えていきたい。

令和3年度生徒授業評価  
中1英語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	62.2%	32.7%	3.8%	1.3%	94.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	67.3%	30.1%	1.9%	0.6%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	58.3%	33.3%	7.7%	0.6%	91.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	75.6%	21.8%	1.9%	0.6%	97.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.1%	18.6%	0.6%	0.6%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	72.4%	25.0%	1.9%	0.6%	97.4%
	7	発問や説明は適切である。	73.1%	25.0%	1.3%	0.6%	98.1%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	75.0%	23.1%	1.3%	0.6%	98.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	71.2%	25.6%	1.9%	1.3%	96.8%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	73.7%	22.4%	1.9%	1.9%	96.2%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ① 小学校外国語活動との違いやラウンド制授業について生徒が十分に理解したことで、意欲的に学習する動機付けとなり、項目1は過去4年間で最高値の評価を得られた。
- ② 生徒が活動ごとの目的を理解してから授業に臨んだことで、項目2は昨年度より2.4ポイントの改善が見られた。

(b) 成果

- ① 様々な活動を通して教科書の本文に繰り返し触れるラウンド制の授業方法を理解してもらうため、活動ごとに生徒にねらいを説明し、個人目標を設定してから授業を進めた。
- ② 4月当初は授業規律・ペア活動の臨み方・家庭学習について丁寧に指導するよう心掛けた。また、各ラウンドの導入時には「このラウンドを通して身につけたい力」「そのために取り組めること」をプリントとともに説明し、その後生徒自身で「どのように学ぶか」を考え、活動前・中・後に書いて振り返る機会をもうけた。

(c) 課題

- ① 易しい英語を用いた授業を心掛けたが、項目3は昨年度マイナス3.9%であった。
- ② 生徒とのインタラクションに重きを置いて授業を進めたが、項目9は昨年度マイナス3.4%であった。
- ③ 評価基準を単元・発表活動の前に周知する機会を設けたが、項目10は昨年度マイナス3.8%であった。

(d) 改善策

- ① 生徒が分かりやすい発問・補問の投げかけをスモールステップで行う。
- ② 一方的なTeacher's Talkではなく、elicitingを通して生徒から発言を引き出しながら授業を展開する。
- ③ 評価前の基準周知をよりわかりやすく行い、評価票配付の際の説明を丁寧に進行。

令和3年度生徒授業評価  
中2国語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	27.6%	55.1%	14.1%	3.2%	82.7%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	49.4%	44.2%	5.8%	0.6%	93.6%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	63.5%	35.9%	0.6%	0.0%	99.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	74.4%	23.7%	1.9%	0.0%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	84.6%	14.7%	0.6%	0.0%	99.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	80.1%	19.2%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	82.7%	16.7%	0.6%	0.0%	99.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	80.1%	17.9%	1.3%	0.6%	98.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	76.3%	19.9%	2.6%	1.3%	96.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	78.8%	19.9%	0.6%	0.6%	98.7%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領全面実施に沿って、学習単元表を「身に付けたい資質・能力」をポイントに据えて作成し、生徒自身が見通しをもって各単元の学習に取り組めるようにしている。</li> <li>・昨年度より継続して、家庭学習の習慣作りとしてチャレンジ新聞、チャレンジ漢字の課題提示を定期的に行っている。</li> <li>・言語活動の設定を、校外学習の場面や総合的な学習の内容と結び付けて、「身に付けたい資質・能力」を実践的に生かせるようにしている。</li> </ul> <p>(b) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取り組みは、おおむね指導のねらいに達成していると考えられる。</li> </ul> <p>(c) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①チャレンジ課題や、各単元の学習成果物の提出がそろわない場面がある。</li> <li>②昨年度に引き続きコロナ感染拡大防止の影響もあり、四領域のうち「話す」学習の場面が限られている。</li> <li>③生徒たちがより主体的、意欲的に授業や学びに向かえるようにしたい。</li> </ol> <p>(d) 改善策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各成果物の提出がそろうように、声かけを確実に繰り返す。課題に要するおおよその時間を伝え、完成までの見通しを立てやすいようにする。</li> <li>②「話す」学習の「身に付けたい資質・能力」と、「読む」「書く」の「身に付けたい資質・能力」とが深くつながっていることを説明し、「話す」学習で学んだことを他領域の学習場面で生かせるようにしていく。</li> <li>③生徒たちがより主体的、意欲的に学びに向かえるように、各単元での導入や言語活動の設定を、さらに実生活に結びつけたものになるよう工夫する。</li> </ol>
---

令和3年度生徒授業評価  
中2社会 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	32.7%	50.6%	12.2%	4.5%	83.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	56.4%	38.5%	4.5%	0.6%	94.9%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	51.3%	44.9%	3.8%	0.0%	96.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	76.3%	21.8%	1.3%	0.6%	98.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.1%	17.3%	0.6%	0.0%	99.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	85.9%	14.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	7	発問や説明は適切である。	84.0%	15.4%	0.6%	0.0%	99.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	78.2%	20.5%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	76.9%	20.5%	1.3%	1.3%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	84.0%	15.4%	0.6%	0.0%	99.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①単元ごとに「学びのプラン」を作成し、学習と評価の見通しをもって学習できるようにした。
- ②単元ごとに教科書の内容で一問一答形式で取り組む「予習プリント」を作成した。
- ③単元や授業の課題を明確化し、課題解決的な学習を心掛けた。

(b) 成果

- ①単元の課題を意識して学習し、単元の内容を振り返ることができた。
- ②事前に教科書に触れることで、生徒が授業の内容にスムーズに入ることができた。
- ③質問6の項目で、肯定的な評価で100%を達成できた。

(c) 課題

- ①休校と分散登校で年間計画と具体を示す「学びのプラン」にずれが生じた部分があった。
- ②質問1の項目で肯定的な評価が83.3%にとどまり、他の項目に比べて低かった。
- ③歴史的分野の授業で、課題解決的な学習が少なくなってしまった。

(d) 改善策

- ①重点的に扱う内容を精査し、年間計画に沿う形で授業を展開する。
- ②「学びのプラン」の単元のまとめで行っている復習について生徒に再度、説明する。
- ③教科会で歴史分野の学習課題について共有をし、深めていく。



令和3年度生徒授業評価  
中2数学 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	41.8%	43.7%	12.7%	1.9%	85.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	57.0%	37.3%	4.4%	1.3%	94.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	47.5%	42.4%	8.2%	1.9%	89.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	72.8%	21.5%	5.1%	0.6%	94.3%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	80.4%	17.7%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	79.1%	20.3%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	81.6%	15.8%	2.5%	0.0%	97.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	81.0%	17.7%	0.6%	0.6%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	79.7%	16.5%	3.2%	0.6%	96.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	81.0%	17.1%	1.9%	0.0%	98.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①完成ノートチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習するように指導した。
- ②定期テストや基礎力診断テストの振り返りを毎回行い、今後の学習の方向性を示した。
- ③生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行った。
- ④基礎力診断テスト結果による再テストだけでなく、補習や、希望制の学習会を行った。

(b) 成果

- ①日々完成ノートを進める姿が見られた。
- ②振り返りを通した個別のフィードバックの中で、きちんと振り返りを行うようになった。
- ③理解の進んでいない生徒に対するフォローを生徒どうしでする姿が見られた。
- ④意欲はあるものの苦手意識の高い生徒に対するフォローを十分に行えた。

(c) 課題

- ・基本的な計算に対する正確性が低い。
- ・質問3で、90%を下回っていること。

(d) 改善策

- ・日常的に計算に触れさせ、課題発見、道筋を捉えた後に自分の力で課題を解決するように指導する。
- ・毎時間の復習指導も計画性をもって行い、各授業の理解度の把握、定着を図る。

令和3年度生徒授業評価  
中2理科 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思 う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	43.9%	42.7%	11.5%	1.9%	86.6%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.8%	34.4%	2.5%	1.3%	96.2%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	51.6%	44.6%	3.2%	0.6%	96.2%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	83.4%	15.9%	0.6%	0.0%	99.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.9%	10.2%	1.3%	0.6%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	87.9%	11.5%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	89.2%	10.2%	0.6%	0.0%	99.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	87.9%	10.8%	1.3%	0.0%	98.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	79.0%	19.1%	0.6%	1.3%	98.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	87.3%	12.7%	0.0%	0.0%	100.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①令和2年度に引き続き、授業内容と日常生活の関わりを考えたり、学んだことをさらに詳しく調べたりする課題（自宅学習シート）を設けた。
- ②単元ごとに時間数の見直しをもって授業計画を立て、授業を行った。
- ③9月の分散登校期間中は、自宅でプリントによる予習を行い、登校時の意見交流をしながら思考する学習を行った。また、登校時に授業で使用した資料を自宅でも見られるようにclassroomを通じて配布した。

(b) 成果

- ①令和2年度と同様に、復習の課題として生徒が取り組んだ。
- ②令和3年度は、4月にきちんとガイダンスをすることができたため、年間指導計画が令和2年度よりも生徒にきちんと伝わった。分散登校期間があったものの、年度内に2学年の学習内容を終えることができた。
- ③資料をclassroomで配布したことで、授業を欠席した生徒も学習に取り組むことができた。

(c) 課題

- ①令和2年度に比べ予習・復習をする生徒の割合がやや低下した。授業が週に4コマになったため、課題の提出回数が増加し、負担となったのか、自宅学習シートの提出率が少し下がった。
- ②単元ごとの詳細な指導計画を伝えられていないので、計画の説明が不十分に感じた生徒がいるようである。
- ③資料をclassroomで配布するには手間がかかり、分散登校が終わった後は配布をしなくなった。

(d) 改善策

- ①自宅学習シートの提出状況を示し、未提出の生徒に声をかける。また、授業中に記入の時間を確保する。
- ②授業で学ぶ新鮮さを残しつつ、見直しを持てるような計画の伝え方を考える。
- ③必要に応じてchromebookの活用ができるように、情報機器の操作について学ぶ。

令和3年度生徒授業評価  
中2音楽 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	13.0%	46.1%	30.5%	10.4%	59.1%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	60.4%	31.2%	6.5%	1.9%	91.6%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	47.4%	44.2%	7.8%	0.6%	91.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	39.0%	42.9%	16.2%	1.9%	81.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	68.8%	26.6%	4.5%	0.0%	95.5%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	59.7%	33.8%	5.8%	0.6%	93.5%
	7	発問や説明は適切である。	57.8%	33.1%	7.1%	1.9%	90.9%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	51.9%	43.5%	2.6%	1.9%	95.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	64.9%	28.6%	5.8%	0.6%	93.5%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	61.7%	31.8%	4.5%	1.9%	93.5%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

1. 歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。
2. 生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど)
3. 楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。

(b) 成果

1. コロナ禍における教育制限の中、曲に対する理解は深めることが出来た。
2. 基礎を再確認・復習したことにより、楽曲に対しての関心度が高まった。
3. より深い表現をするのに役立った。

(c) 課題

1. コロナ禍における表現力の説明について情報を収集すべきである。
2. もう少し丁寧な説明が必要である。
3. もう少しわかりやすい説明が必要である。

(d) 改善策

1. 表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。
2. ていねいに説明していく。
3. 資料作成にあたりさらに工夫をする。

令和3年度生徒授業評価  
中2美術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思 う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	26.0%	34.4%	24.7%	14.9%	60.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	67.5%	28.6%	3.2%	0.6%	96.1%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	56.5%	36.4%	5.8%	1.3%	92.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	46.8%	44.8%	7.1%	1.3%	91.6%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	58.4%	35.7%	5.8%	0.0%	94.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	66.9%	31.2%	1.9%	0.0%	98.1%
	7	発問や説明は適切である。	62.3%	35.1%	2.6%	0.0%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	60.4%	34.4%	5.2%	0.0%	94.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	59.7%	37.0%	3.2%	0.0%	96.8%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	72.7%	23.4%	3.9%	0.0%	96.1%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

表現の基礎を理解させるように進めていった。

(b) 成果

一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。

(c) 課題

個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。

(d) 改善策

個別に丁寧にアドバイスをしていく。

令和3年度生徒授業評価  
中2保健体育 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	33.8%	44.2%	15.6%	6.5%	77.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	69.5%	22.7%	6.5%	1.3%	92.2%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	51.3%	40.3%	7.1%	1.3%	91.6%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	74.7%	21.4%	3.2%	0.6%	96.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	81.2%	16.9%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	78.1%	19.9%	2.0%	0.0%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	72.1%	21.4%	5.2%	1.3%	93.5%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	64.9%	27.3%	3.9%	3.9%	92.2%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	64.9%	24.7%	7.1%	3.2%	89.6%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	53.9%	37.0%	6.5%	2.6%	90.9%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
- ②運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていける。

(b) 成果

- ①授業評価では、どの項目も90%以上と高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒も増えてきたことがうかがえる。
- ②ペアでの活動ではどのような声掛けをしたらよいか、アドバイスをする際の着目点を例などを示すことで活発な活動につながったと考えられる。

(c) 課題

- ①予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいるの回答が80%を下回った。
- ②クラスでの友人関係がそのまま授業に影響し、消極的になる生徒もいる。

(d) 改善策

- ①次に学習する単元のルールをまとめる課題などを出すことで、ルールの理解や種目の知識量が学習意欲につながると考える。
- ②チームやペアで協力して活動する場を大切にしていける。生徒の生活の様子をできるだけ把握しておく必要がある。

令和3年度生徒授業評価  
中2技術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	26.6%	38.3%	28.6%	6.5%	64.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	47.4%	35.1%	14.9%	2.6%	82.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	38.3%	42.2%	18.8%	0.6%	80.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	40.3%	39.6%	16.9%	3.2%	79.9%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	53.9%	35.1%	9.7%	1.3%	89.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	51.3%	35.7%	10.4%	2.6%	87.0%
	7	発問や説明は適切である。	45.5%	42.2%	9.7%	2.6%	87.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	44.8%	42.2%	11.0%	1.9%	87.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	61.7%	29.2%	7.1%	1.9%	90.9%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	65.6%	29.2%	3.2%	1.9%	94.8%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <p>①授業計画をしっかり押さえ授業の目的と流れをおさえた</p> <p>②目的をしっかり押さえた展開をした。</p> <p>(b) 成果</p> <p>①興味を持つための実験や機器を使い組み合わせた。</p> <p>②事前に次の授業の内容を説明してあるので事前学習を減らした</p> <p>(c) 課題</p> <p>①領域を超え融合した授業展開ができた。今後も個人が理解できる機器を揃えたい</p> <p>(d) 改善策</p> <p>①目的をしっかり押さえ、毎授業の目的をさらに分かりやすい説明をしたい</p>
--

令和3年度生徒授業評価  
中2家庭 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	40.9%	37.7%	16.2%	5.2%	78.6%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	68.2%	26.6%	4.5%	0.6%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	64.3%	30.5%	5.2%	0.0%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	71.4%	24.7%	3.2%	0.6%	96.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.0%	22.7%	1.3%	0.0%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	75.3%	21.4%	3.2%	0.0%	96.8%
	7	発問や説明は適切である。	72.7%	24.7%	2.6%	0.0%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	71.4%	24.0%	3.9%	0.6%	95.5%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	77.3%	20.1%	1.3%	1.3%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	70.1%	24.0%	4.5%	1.3%	94.2%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

○新型コロナウイルス感染症予防のため様々な制約はあったが、個人作業で取り組める環境を整え、可能な限り実習を実施し、生活技術の習得と技術の向上を目指す授業を実施した。

(b) 成果

○技術面だけでなく、日常生活に必要な知識の面においても生徒の実生活を振り返る機会をつくり、健康でより良い生活を送るための知識をもとに授業に対する興味関心は全体的に高くなっている。

(c) 課題

○授業には意欲的に取り組んではいたものの、生活技術を定着させるためには繰り返し実施することが必要であり、授業だけではその時間を十分に確保することができない。今年度も時間的な部分など厳しいものがあった。  
○例年のことではあるが、11月から技術の授業から家庭科の授業に代わり、数回の授業で授業評価を行うのは厳しいと感じる。

(d) 改善策

○生活技術の習得については、学校の授業で行うだけでは不十分である。家庭で自発的に練習の機会を作ってもらえるような魅力的な授業内容や技術の習得意欲が高まる題材を工夫していきたい。

令和3年度生徒授業評価  
中2英語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	44.2%	41.7%	9.6%	4.5%	85.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	62.8%	29.5%	7.1%	0.6%	92.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	59.0%	26.9%	12.2%	1.9%	85.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	74.4%	23.1%	1.9%	0.6%	97.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	77.6%	18.6%	2.6%	1.3%	96.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.7%	20.5%	5.1%	0.6%	94.2%
	7	発問や説明は適切である。	73.1%	21.8%	4.5%	0.6%	94.9%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	71.2%	23.7%	3.8%	1.3%	94.9%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	77.6%	16.7%	4.5%	1.3%	94.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	83.3%	14.1%	2.6%	0.0%	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①ラウンド制の学習方法を理解し、主体的に学習に取り組む意識づけをするため、活動ごとに生徒にねらいを説明しながら授業を進めた。具体的には、「学びのプラン」を用いて各ラウンド導入の説明で「このラウンドを通して身につけたい力」「そのために取り組めること」をプリントとともに説明し、その後生徒自身で「どのように学ぶか」を考え、書いてまとめる機会をもうけた。
- ②授業中の活動がより充実したものになるよう、授業規律・ペア活動の臨み方・家庭学習について丁寧に指導するよう心掛けた。
- ③ 易しい英語で授業を進め、自分のことについて英語を用いて話す活動を毎時間設定することで、生徒が英語で考え、英語のやり取りで授業が進められるよう努めた。

(b) 成果

- ①生徒が、学びのプランをもとに年間のラウンド制の学習を理解し、活動ごとの目的と学び方を理解してから授業に臨むことができた。(項目2、4、5)
- ②英語によるコミュニケーションにおいては、「わからない」ことを当然としながら、その場で教員と英語で確認したり、生徒同士で話し合う機会を多く設けたことで、生徒が英語で考え、英語のやり取りで授業を進めることに慣れることができている。(項目2、8、9)

(c) 課題

- ① 生徒の学習意欲を刺激する授業を心掛けたが、項目2は昨年度マイナス3.1%であり、主体的・積極的に授業に参加するような授業を展開する必要がある。
- ② 生徒が主体的に学習に取り組む意識づけを心がけたが、項目1は昨年度マイナス8%であり、予習・復習など、授業外での取り組みについて周知が不十分であった。
- ③ 易しい英語を用いた授業を心掛けたが、項目3は昨年度マイナス10%であった。生徒が分かりやすい発問や説明となるようさらに意識する必要がある。

(d) 改善策

- ① すべての生徒が主体的・積極的に授業に参加できるように、個に応じた支援・指導を意識する。
- ② 新単元ごとに年間計画を示し、部分と全体を確認しながら学習内容を具体的に生徒に説明する。
- ③ Easy English, Simple Englishをより意識した発話を心掛ける。



令和3年度生徒授業評価  
中3国語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	18.2%	53.2%	23.4%	5.2%	71.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	51.3%	39.0%	7.8%	1.9%	90.3%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	41.6%	53.2%	4.5%	0.6%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	64.3%	29.9%	5.2%	0.6%	94.2%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.0%	21.4%	1.3%	1.3%	97.4%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	73.4%	23.4%	3.2%	0.0%	96.8%
	7	発問や説明は適切である。	70.1%	24.7%	3.9%	1.3%	94.8%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	64.9%	29.9%	3.9%	1.3%	94.8%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	68.8%	23.4%	5.2%	2.6%	92.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	81.2%	16.2%	2.6%	0.0%	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ・家庭学習の課題内容、取り組み方法、評価の方法を明示し、家庭学習の習慣作りを促進する。  
特に家庭学習の習慣作りとして、チャレンジ新聞、チャレンジ漢字の課題提示を継続的に行った。
- ・単元ごとの学習計画表を、生徒の実態に合わせて更新し、見直しをもって主体的・積極的に学習に取り組めるようにする。
- ・コロナ感染防止に伴い、学習単元の精選をおこない、予防対策の環境下での学習活動を展開した。

(b) 成果

- ・今年度設定した目標は、おおむ達成していると考えられる。
- ・項目5, 6より、学習単元目標は有効だったと考えられる。

(c) 課題

- ・項目1より、チャレンジ漢字、チャレンジ新聞の学習が習慣になっている生徒と取り組めていない生徒がいると考えられる。
- ・長期欠席や附属中学校の学習スタイルになじまない生徒たちの、学習に関する関心意欲項目の評価について考えていきたい。

(d) 改善策

- ・今年度の学習状況を引き継いだ、学習計画の作成をする。
- ・学年および教科内で、予習復習等の主体的に学習に取り組む態度の項目の評価について検討する。

令和3年度生徒授業評価  
中3社会 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.0%	44.8%	16.2%	1.9%	81.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	63.6%	29.9%	5.8%	0.6%	93.5%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	52.6%	42.2%	4.5%	0.6%	94.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	77.3%	19.5%	3.2%	0.0%	96.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.5%	15.6%	1.9%	0.0%	98.1%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.8%	15.6%	0.6%	0.0%	99.4%
	7	発問や説明は適切である。	79.2%	19.5%	0.6%	0.6%	98.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	79.9%	17.5%	2.6%	0.0%	97.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	70.1%	24.7%	4.5%	0.6%	94.8%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	77.9%	19.5%	1.9%	0.6%	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①授業内容や身に付けて欲しい資質・能力などを書いた「単元計画」を毎回の単元初めに生徒に配布し、作成し、見直しをもって学習できるようにした。
- ②毎回の授業のふり返り時に、単元の課題に対するふり返りも同時に行うようにした。
- ③単元ごとに教科書の内容で一問一答形式で取り組む「予習プリント」を作成し、単元終わりに小テストを実施した。
- ④授業の主発問を整理し、グループワークや課題解決的な学習を心掛けた。

(b) 成果

- ①見直しをもって取り組み、単元の課題を意識して学習することができた。
- ②単元のまとめを書くときに、内容を整理しやすくなった。
- ③事前に教科書を読むことにより、授業での理解が深まった。質問項目1の数値が上がった。

(c) 課題

- ①年間計画と具体を示す「単元計画」にずれが生じた部分があった。
- ②単元のまとめについて、質問の意図が伝わりづらい部分があった。
- ③予習プリントの定着度合いが、生徒によってばらつきがでてしまった。

(d) 改善策

- ①1年間の単元計画を早期に作成する。
- ②単元の課題について、発問の意図を丁寧に説明をする。
- ③再度「予習プリント」の意義と復習の仕方について生徒に説明をする。

令和3年度生徒授業評価  
中3数学 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	36.6%	45.8%	13.1%	4.6%	82.4%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	60.1%	34.6%	3.9%	1.3%	94.8%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	46.4%	44.4%	8.5%	0.7%	90.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	71.2%	25.5%	3.3%	0.0%	96.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	85.6%	12.4%	1.3%	0.7%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	83.7%	13.1%	3.3%	0.0%	96.7%
	7	発問や説明は適切である。	86.3%	11.8%	2.0%	0.0%	98.0%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	78.4%	19.6%	2.0%	0.0%	98.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	78.4%	19.6%	1.3%	0.7%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	85.0%	13.1%	2.0%	0.0%	98.0%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①体系数学を教材とし、発展的な内容を扱った授業を行う。
- ②完成ノートのチェックシートを配布し、日々チェックを行う。また、計画的に学習を進めるように指導する。
- ③定期テスト、基礎力診断テストの振り返りを毎回、その方法も含めて指導し、評価する。  
特に、定期テスト、基礎力診断テストの直しについては、しっかりと丁寧に行った。
- ④基礎力診断テストの得点が8割に満たない生徒に対して、補習、課題の提出と再試験を実施する。
- ⑤自己評価カードを記入させ、生徒の理解度や疑問を把握するよう努めている。
- ⑥授業内での「問い」の設定を大切に、生徒の「なぜ？」をもたせるように授業を展開した。
- ⑦生徒どうしの対話の中で問題を解決し、理解できるように声掛けを行った。

(b) 成果

- ①生徒の理解度を見ながら進めたため、大半の生徒は内容を理解できている。
- ②日々生徒の完成ノートの進捗状況を確認することができ、学力の向上につながった。
- ③個別に対応できるため、生徒の理解度や意欲の向上につながっている。また、次のテストに向けての取り組み方を考える良い機会になっている。
- ④基礎的な力の定着につながった。
- ⑤自己評価カードの内容をもとに、生徒の疑問を把握、共有することも行えた。
- ⑥誰もが「なぜ？」をもてる「問い」の設定を行ったことで、数学の得意な生徒もそうでない生徒もともに議論し練り上げながら授業づくりができた。
- ⑦主体的、積極的に授業に参加している生徒が増加した。

(c) 課題

- ・質問3で、そう思う、ややそう思うが合わせて90%であり、理解できていない生徒が一定数いるということ。
- ・正確な計算力にやや課題を抱える生徒がみられること。

(d) 改善策

- ・授業の時間内で生徒の様子をしっかりと観察し、理解が遅い場合に適切な支援を行う。
- ・定期的に基礎的な計算練習を行わせることで、改善を図る。

令和3年度生徒授業評価  
中3理科 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	35.8%	45.0%	16.6%	2.6%	80.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.6%	35.8%	2.0%	0.7%	97.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	57.0%	37.7%	4.0%	1.3%	94.7%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	83.4%	16.6%	0.0%	0.0%	100.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	76.2%	22.5%	0.7%	0.7%	98.7%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	82.8%	15.9%	0.7%	0.7%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	80.1%	19.2%	0.0%	0.7%	99.3%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	78.1%	18.5%	2.6%	0.7%	96.7%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	80.8%	16.6%	2.0%	0.7%	97.4%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	86.1%	12.6%	0.7%	0.7%	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①生徒が単元の見通しや目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができるよう、単元における1時間ごとの学習内容と評価計画を示した「学びのプラン」を作成し、配付した。
- ②本物にふれる体験を重視し、観察や実験を中心とした授業を行った。
- ③理科の目標である「科学的に探究する力の育成」を図るため、探究に必要な「基本的な知識や技能を習得する活動」と、習得した知識や技能を活用して「科学的に探究する活動」を計画的に単元に組み入れ、指導を行った。
- ④ノートは板書を写すのではなく、各自が工夫してまとめるよう指導し、その取り組みに応じた評価を行った。

(b) 成果

- ①「学びのプラン」により、1時間ごとの授業のねらい（評価のポイント）や単元全体を通した授業のつながりが明確になり、生徒が見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができた。
- ②観察や実験を通して自然の美しさや不思議にふれ、理科への興味関心を高めることができた。
- ③科学的に探究する活動を通して、「問題を見いだす」「課題を解決する方法を立案する」「結果を分析して解釈し表現する」などの、科学的に探究する力を育成することができた。
- ④自分なりに考え、工夫してノートをまとめる生徒が多くなり、思考力・表現力が向上した。

(c) 課題

- ・項目番号1の「予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。」について、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している生徒が一定数おり、他の項目番号と比較して、ポイントがやや低くなっている。

(d) 改善策

- ・わたしの週プランなどを活用し、家庭学習の習慣づくりに取り組むとともに、学習の仕方について具体的にアドバイスをしたり、予習・復習を行うことの意義を伝えたりするなど、学年で連携して働きかけを継続していく。

令和3年度生徒授業評価  
中3音楽 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	24.3%	37.5%	23.7%	14.5%	61.8%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	57.2%	36.2%	5.3%	1.3%	93.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	44.1%	40.8%	13.2%	2.0%	84.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	46.7%	42.1%	8.6%	2.6%	88.8%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	75.0%	23.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	65.1%	31.6%	2.6%	0.7%	96.7%
	7	発問や説明は適切である。	67.8%	28.9%	2.0%	1.3%	96.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	59.2%	34.2%	5.3%	1.3%	93.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	73.0%	25.0%	2.0%	0.0%	98.0%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	83.6%	15.8%	0.7%	0.0%	99.3%

<授業評価を受けて>

<p>(a) 取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>歌唱、合唱については、コロナ禍の教育制限の中、理論的なものを中心に行った。</li> <li>生徒の音楽理論曲の統一した定着をはかった。(例 音符、休符の長さなど)</li> <li>楽しく、よりよい表現をするため曲のアナリゼを重点的に行った。</li> </ol> <p>(b) 成果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における教育制限の中、曲に対する理解は深めることが出来た。</li> <li>基礎を大切に、応用についての理解が深まり、探究する姿もみられた。</li> <li>より深い表現するのに役立った。</li> </ol> <p>(c) 課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における表現力の説明について情報を収集すべきである。</li> <li>もう少し丁寧な説明が必要である。</li> <li>もう少しわかりやすい説明が必要である。</li> </ol> <p>(d) 改善策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>表現分野について、鑑賞教育とリンクさせた指導を行う。</li> <li>ていねいに説明していく。</li> <li>資料作成にあたりさらに工夫をする。</li> </ol>
--

令和3年度生徒授業評価  
中3美術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	19.7%	40.8%	22.4%	17.1%	60.5%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.2%	34.9%	2.6%	1.3%	96.1%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	55.3%	34.9%	8.6%	1.3%	90.1%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	77.0%	19.7%	3.3%	0.0%	96.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	75.0%	23.0%	1.3%	0.7%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	70.4%	28.3%	0.7%	0.7%	98.7%
	7	発問や説明は適切である。	71.1%	26.3%	2.0%	0.7%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	64.5%	27.6%	7.2%	0.7%	92.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	76.3%	23.0%	0.0%	0.7%	99.3%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	77.6%	19.7%	2.6%	0.0%	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

表現の基礎を理解させるように進めていった。  
年間の授業計画に伴い、生徒個人の進捗状況を確認しながら行った。

(b) 成果

一人一人に表現の仕方に差はあるが、対象のとらえ方は上手に出来るようになった。  
生徒個人個人の取り組みを細かく観察し、評価できた。  
時間数が少ないので作品の完成度を上げるのが大変であったが、  
生徒たちが自ら補習の時間を要望する位の主体性が育まれた。

(c) 課題

個人の技能の差があり、それが意欲の差にもなっている。  
年度当初に年間計画の説明をしているが、分散登校等で授業時間数が減り、  
制作のペースを上げざるを得なかった。また、美術が苦手な生徒にも主体的に  
取り組む姿勢を付けさせる工夫が必要である。

(d) 改善策

個別に丁寧にアドバイスをしていく。教材や指導方法の改善だけでなく、  
自発的創作活動時間を多めにとるなど、生徒の自主性をより高めていきたい。

令和3年度生徒授業評価  
中3保健体育 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	37.5%	34.2%	21.7%	6.6%	71.7%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	64.5%	29.6%	5.9%	0.0%	94.1%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	54.6%	36.8%	8.6%	0.0%	91.4%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	84.9%	13.8%	1.3%	0.0%	98.7%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	82.9%	17.1%	0.0%	0.0%	100.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	82.9%	16.4%	0.7%	0.0%	99.3%
	7	発問や説明は適切である。	74.3%	23.0%	2.6%	0.0%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	65.1%	28.9%	5.9%	0.0%	94.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	71.7%	24.3%	2.6%	1.3%	96.1%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	77.0%	18.4%	3.9%	0.7%	95.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ①オリエンテーションで保健体育科の授業の学び方、挨拶、整列、準備運動といった基本の授業規律を徹底し、集団での行動がスムーズにできるように指導した。
- ②今年度は外出自粛の影響により、運動の機会の減少や体力の低下が懸念された。そのため家庭で取り組める運動や個人で手軽に行えるトレーニングを多く取り入れた。

(b) 成果

- ①授業評価では、どの項目も90%以上と高い評価を受けた。授業開始前に道具を準備したり整列指示を出す様子も見られ主体的に取り組もうとする生徒も増えてきたことがうかがえる。
- ②家庭で取り組みやすく、またお手本を映像などで確認できる手軽な運動を授業に取り入れたことで、将来必要に応じて運動を選択したり生涯にわたってスポーツに親しむ力を養うことに繋がったと考えられる。

(c) 課題

- ①けがの要因として、体力や筋力、運動の機会の少なさが原因の一つとして考えられる。
- ②クラスでの友人関係がそのまま授業に影響し、消極的になる生徒がいた。生徒の生活の様子をできるだけ把握しておく必要がある。

(d) 改善策

- ①例年行っていた「サーキットトレーニング」を授業の始めに取り入れ、個々の課題や目標にあった運動で体力の向上を目指す。
- ②運動が苦手な生徒、コミュニケーションに課題のある生徒がいることを常に意識して、どの単元でもチームやペアで協力して活動する場を大切にしていく。

令和3年度生徒授業評価  
中3技術 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思 う	ややそ う思 う	あまり そう思 わない	そう思 わない	そう思 う ややそう 思 う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	19.7%	38.2%	24.3%	17.8%	57.9%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	36.8%	42.8%	15.8%	4.6%	79.6%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	28.9%	50.0%	16.4%	4.6%	78.9%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	34.9%	38.2%	19.1%	7.9%	73.0%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	44.7%	39.5%	10.5%	5.3%	84.2%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	40.1%	37.5%	16.4%	5.9%	77.6%
	7	発問や説明は適切である。	35.5%	36.8%	18.4%	9.2%	72.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	38.2%	36.8%	18.4%	6.6%	75.0%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	50.0%	36.2%	9.2%	4.6%	86.2%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	65.8%	27.0%	4.6%	2.6%	92.8%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

①日々の日常生活から世界的な視野を広げられる情報を与える。

グローバルな視点をつけさせ考えさせる。

(b) 成果

①世界的な食糧危機と温暖化の抑制を考えさせた。

②実習を通して食糧の生産の大切さを家族ぐるみで考え去ることができた。

②事前に次の授業の内容を説明してあるので事前学習を減らした

(c) 課題

①身近な職の生活を大切にし、科学の進化を学習できる力をさらにつけさせたい。

(d) 改善策

①極力日常生活を起点と考えさせていきたい。



令和3年度生徒授業評価  
中3家庭 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	29.6%	46.7%	17.8%	5.9%	76.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	65.8%	27.6%	5.3%	1.3%	93.4%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	54.6%	38.2%	6.6%	0.7%	92.8%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	82.9%	14.5%	2.0%	0.7%	97.4%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	79.6%	18.4%	2.0%	0.0%	98.0%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	77.6%	19.1%	3.3%	0.0%	96.7%
	7	発問や説明は適切である。	78.3%	18.4%	3.3%	0.0%	96.7%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	78.3%	19.1%	2.6%	0.0%	97.4%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	77.6%	21.1%	1.3%	0.0%	98.7%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	86.2%	12.5%	1.3%	0.0%	98.7%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- 多くの中学生にとって、あまり親しみのない幼児の生活について学習するにあたり、自分自身の振り返りや家族のことなど、身近なことからアプローチし、取り組みやすくなるよう工夫した。
- 保育園児との交流ができなかった時間は、授業展開に余裕をとることに活用した。

(b) 成果

- 保育園児との交流ができなかった分、授業の展開にゆとりを持たせたことで、生徒1たちは一つ一つの課題に落ち着いて取り組み、幼児の発達や生活の様子に興味を持たせることができた。
- おやつ作りを個人作業で実習させたり、宿題として家で作らせることで、友達に頼らずに必ず自分で作るという体験をさせることができた。

(c) 課題

- 幼児との触れ合いだけでなく、日常生活における生活体験が不足がちな生徒にとって、多くの実習を取り入れた授業展開は、欠かすことができないものであるが、現状は厳しいものがある。

(d) 改善策

- ビデオ教材や感染症の影響を受けないところでの講演会等々、保育園児との交流に代わる教材等の工夫をしたい。

令和3年度生徒授業評価  
中3英語 南高等学校附属中学校

項目	番号	評価指標	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う ややそう思う
自分自身について	1	予習・復習など学習の準備をして意欲的に学習に取り組んでいる。	39.2%	45.1%	12.4%	3.3%	84.3%
	2	主体的、積極的に授業に参加している。	61.4%	35.3%	2.6%	0.7%	96.7%
	3	授業で学習した内容は、だいたい理解でき、または身に付いている。	60.1%	33.3%	5.2%	1.3%	93.5%
授業や先生について	4	授業の年間計画は明確であり、授業もそれを基本にして進められている。	77.8%	18.3%	3.9%	0.0%	96.1%
	5	生徒に学力を身に付けさせようと、授業に熱心に取り組んでいる。	87.6%	11.8%	0.7%	0.0%	99.3%
	6	学習のねらいに沿った適切な学習内容であり、内容の組み立ても適切である。	81.7%	16.3%	2.0%	0.0%	98.0%
	7	発問や説明は適切である。	78.4%	19.0%	2.0%	0.7%	97.4%
	8	板書、プリント、教材の使い方は適切で効果的であり学習を促進する。	75.2%	20.9%	3.3%	0.7%	96.1%
	9	公平であり、生徒を理解しようとしているため安心して質問などができる。	82.4%	14.4%	2.0%	1.3%	96.7%
	10	授業中の活動や提出物への評価は公平で適切であり、成績も納得できる評価である。	85.6%	11.8%	2.6%	0.0%	97.4%

<授業評価を受けて>

(a) 取り組み

- ① 各ラウンド導入の説明でそれぞれの「身につけたい力」「そのために取り組めること」をプリントとともに説明し、その後生徒自身で「どのように学ぶか」を考え、書いてまとめる機会を設けた。また、各ラウンドの途中で再度それらを確認することで、主体的に取り組む姿勢を自ら修正する機会を設けた。
- ② 英語によるコミュニケーションにおいては、「わからない」ことを当然としながら、その場で教員と英語で確認したり、生徒同士で話し合う機会を多く設けた。生徒が英語で考え、英語のやり取りで授業が進むことになれるように授業を行った。

(b) 成果

- ① 各ラウンドの途中で振り返りの時間を設けることで、今の自分に何が必要なのかを自らの学習を振り返る時間を持つことができた。このことにより、項目1の評価が昨年度より1.8%上昇した。
- ② 生徒の「言いたかったこと」を易しい英語で言い換えたり、どのように言いたいのかを質問したりすることで、生徒が自分の伝えたいことを英語で伝えられるように適切にアシストすることができた。このことにより、教師や生徒同士のやり取りに自信を持ち、積極的に参加している生徒は昨年度と同様の値を示した。

(c) 課題

- ① 生徒を理解し公平であろうと心掛け、易しい英語を用いて授業を行ってきたが、項目9は昨年度よりマイナス2%であった。生徒との信頼関係を今一度築き、安心して質問ができる環境をつくる必要がある。
- ② 今年度から新しい教科書になったことで、例年とは異なり、新しい登場人物や2年生までの物語を4月に復習する必要があった。予定していた時間より長かくなり、5月まで行った。また分散登校により、授業進度も遅れてしまった。その後の授業計画の修正周知が不十分であった。
- ③ 授業中の活動や提出物への評価は年度当初にプリントを用いて説明したが、項目10の評価は昨年度より3%下がった。各学期の最初の授業に今一度説明をする必要がある。

(d) 改善策

- ① すべての生徒が安心して質問などができるように、個に応じた支援・指導を意識する。
- ② 学期ごとに年間計画を示し、部分と全体を確認しながら生徒に説明する。
- ③ 学期ごとに活動や提出物への評価を確認しながら生徒に説明する。